

平成30年度めざそう値の実績値から見る

「第2次島田市総合計画前期基本計画の進捗状況の評価」

令和元年10月

島田市

【全体指標】

市民の感じる幸福度

市民意識調査「幸福感について」
(10点満点評価の平均値)

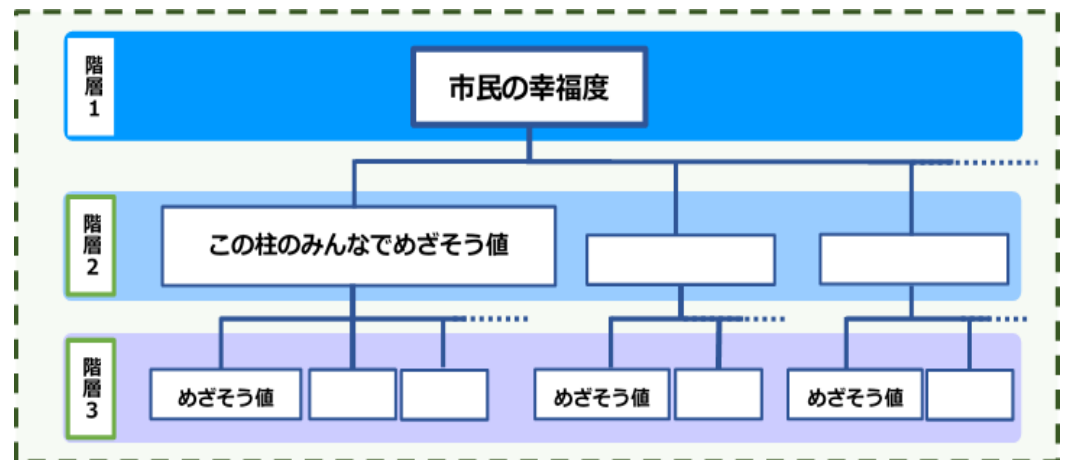
平成 28 年度 (基準値)	平成 29 年度 実績値 (参考)	平成 30 年度 実績値	目標値 (めざそう値)	全国平均値
6.6	6.6	6.5	7.0	6.4

※全国平均は平成 26 年度版厚生労働白書参照

指標と目標値について

- 【階層 1】 第 2 次総合計画前期基本計画のすべてを包含する目標として、「市民の幸福度」を最上位に設定しています。
- 【階層 2】 主要な取組を包含するものとして、施策の柱ごとに設定しています。
- 【階層 3】 主要な取組の進捗を測るものとして、施策単位ごとに設定しています。

☆指標の構成

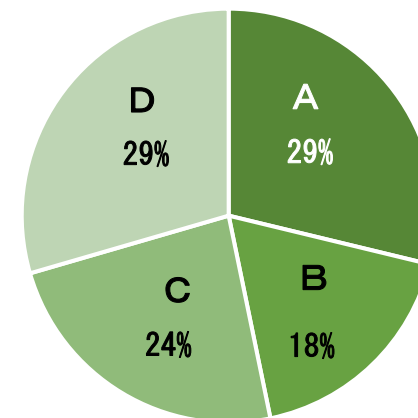


総合計画全体 進捗率評価 集計表

政策分野	A	B	C	D	項目数
政策分野1（安全ですこやかに暮らせるまちづくり）	8	6	7	7	28
政策分野2（子育て・教育環境が充実するまちづくり）	9	3	3	10	25
政策分野3（地域経済を力強くリードするまちづくり）	3	3	7	6	19
政策分野4（住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり）	11	2	5	5	23
政策分野5（歴史・文化かがやく、人が集まるまちづくり）	4	3	2	4	13
政策分野6（ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり）	3	3	6	4	16
政策分野7（人口減少社会に挑戦する経営改革）	2	5	3	5	15
合計	40	25	33	41	139

【考察】

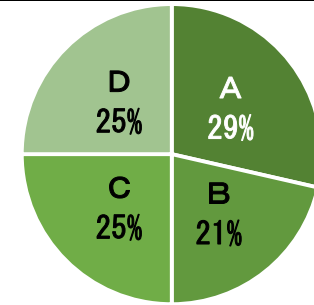
- ・ 計画期間4年の初年度にあたり、めざそう値総数の47%（139項目中65項目）がA、B評価となりました。
- ・ 政策分野レベルでA、B評価が50%以上を占めたのは、政策分野1、4、5でした。
- ・ 施策の柱レベルでA、B評価の割合が高かったのは、「1-1危機管理・防災・消防」、「5-2情報発信・シティプロモーション」、「7-2行財政改革・人材育成・情報公開」でした。一方で、A、B評価の割合が低かったのは、「1-4地域福祉・障害福祉」、「3-5観光」、「6-2幹線道路」となりました。
- ・ A、B評価となった項目については、最終年度である令和3年度に目標値を達成できるよう、引き続き各取組を進めていきます。またC、D評価となった項目について、今後数値の改善が見込めるめざそう値が多いことから、計画的に各施策の展開を図ります。
- ・ 1つでも多くのめざそう値について目標達成し、本計画の最上位指標である「市民の感じる幸福度」が上昇するよう、すべての分野で現状の把握・分析に努め、残り3年間の計画期間における取組を推進していきます。



政策分野別 進捗率評価 集計表

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

施策の柱		A	B	C	D	項目数
1-1	ここに住むすべての人の安全な生活を守る	2	3	1		6
1-2	健康で自分らしく暮らす	3		2	3	8
1-3	生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす	2	3	1	2	8
1-4	弱い立場の人を支えあう	1		3	2	6
小 計		8	6	7	7	28

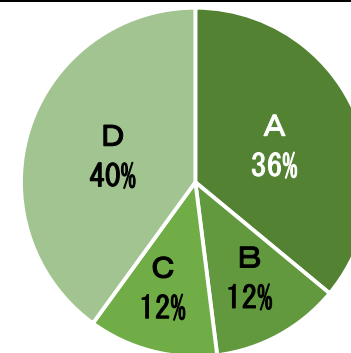


【考察】

- ・ 政策分野1のめざそう値については、50%(28項目中14項目)がA、B評価となりました。
- ・ 施策の柱1-1(危機管理・防災・消防)では、「地域の防災訓練参加率」、「関係機関との合同訓練等の連携団体数」がA評価となるなど、地震や近年頻発している豪雨による被害を目の当たりにし、市民の防災意識・関心が高まっていることが分かります。
- ・ 施策の柱1-2(健康づくり・地域医療)では、「市民意識調査「健康の増進(健康診断や予防対策)」における市民満足度」がA評価となり、健康診断や「しまだ健幸マイレージ事業」などの効果が見られました。一方で、「市民意識調査「医療の充実」における市民満足度」などがD評価となり、今後の医療環境に対する市民の不安やさらなる期待が現れています。
- ・ 施策の柱1-3(高齢者・介護)では、「認知症カフェ実施箇所数」がA評価、「しまトレ実施箇所数」がB評価となるなど、超高齢社会に向けて地域全体で助け合い、支援する体制づくりが進んだ結果となりました。
- ・ 施策の柱1-4(地域福祉・障害福祉)では、「障害者雇用率」がD評価となるなど、官民が連携した施策の充実が求められています。
- ・ 政策分野1では、危機管理・防災・消防、高齢者・介護の分野の評価が高い結果となりました。一方、健康づくり・地域医療、地域福祉・障害福祉の分野の評価が低い傾向にあることからさらなる取組が求められています。今後は、新市民病院の開院や地区社会福祉協議会設置の推進などにより、安全ですこやかに暮らせるまちづくりを進めていく必要があります。

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

施策の柱		A	B	C	D	項目数
2-1	子どもを生き育てやすい環境をつくる	2	1	1	1	5
2-2	地域ぐるみの教育環境をつくる	1	1		3	5
2-3	豊かな心を育む教育を進める	3			3	6
2-4	地域で学びの力を発揮する人材を育てる	3			2	5
2-5	生涯スポーツを楽しむ人を増やす		1	2	1	4
小 計		9	3	3	10	25

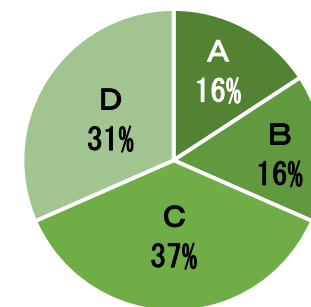


【考察】

- ・ 政策分野2のめざそう値については、48%(25項目中12項目)がA、B評価となりました。
- ・ 施策の柱2-1(子育て)では、「ファミリーサポートセンター会員数」、「保育所等の年度当初における待機児童数」がA評価となるなど、本市の強みである子育て支援策の成果が現れています。今後も4歳未満の子どものいる家庭へ担当保健師を配置する「島田市版ネウボラ」をはじめ、より充実した環境整備を進めていきます。
- ・ 施策の柱2-2(学校支援・子供支援)では、「島田に住み続けたい人の割合(成人式アンケート)」がD評価となりました。本市の将来を担う子どもたちに島田市を知ってもらい、夢や目標を膨らませることができるように、地域の人・資源を生かした地域ぐるみの教育環境づくりが求められる結果となりました。
- ・ 施策の柱2-3(義務教育)では、「不登校児童・生徒におけるチャレンジ教室登録者の割合」などがA評価となりました。誰もが平等な教育を受けられる環境づくりの成果が現れた結果となりました。
- ・ 施策の柱2-4(社会教育)では、「しまだ楽習センター「ふれあい楽習講座」受講満足度」、「夜間や休日に開催する家庭教育講座の参加者数」などがA評価となりました。
- ・ 施策の柱2-5(スポーツ活動)では、「市主催スポーツ大会への参加者数」や「ニュースポーツ教室の延べ参加者数」などの評価が低い結果となりました。一方で、「施設利用者数(社会体育施設)」はB評価となっていることから、スポーツ活動に対するニーズは高いものと思われます。今後も「市民ひとり1スポーツの実現」に向けて、子どもからお年寄りまでの誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりを進めていきます。
- ・ 政策分野2は、7つの政策分野の中でD評価の割合が一番高い結果となりました。安心して子どもを産み、育てていく環境を整え、社会全体で子どもや保護者に「切れ目なく」支援できる体制づくりを進めていく必要があります。

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

施策の柱		A	B	C	D	項目数
3-1	雇用の創出や新技術の導入により地域経済を発展させる	1		3	1	5
3-2	世界に誇れる技術を持った中小企業を育てる	1	1		1	3
3-3	商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す	1	1	1	1	4
3-4	地域の特色を活かした農林業を進める		1	2	1	4
3-5	人と地域の魅力を伝える観光施策を進める			1	2	3
小 計		3	3	7	6	19

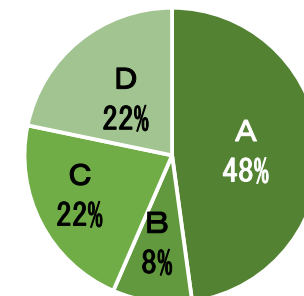


【考察】

- ・ 政策分野3のめざそう値については、32%(19項目中6項目)がA、B評価となりました。
- ・ 施策の柱3-1(地域経済)では、「産業支援センターの個別相談における満足度」がA評価となり、起業支援や販路拡大支援のサポートが評価がされました。また、「企業立地件数」や「企業立地に伴う新規雇用者数」については、現時点での評価は低くなっていますが、今後は新東名島田金谷インターチェンジ周辺地区において企業立地が進み、評価の上昇が期待できます。
- ・ 施策の柱3-2(工業)では、「販路拡大支援による成約件数」がA評価となりました。当市の経済活動の中心を担う、高い技術力をもった中小企業のさらなる成長を支援し、雇用の確保と地域内経済の好循環につなげていきます。
- ・ 施策の柱3-3(商業)では、しまだ音楽広場のオープン効果などにより、「中心市街地(本通二丁目交差点)の歩行者数」がB評価となりました。また、民間事業者による移動販売事業の開始によって、中山間地域における買い物弱者対策の改善が図られました。
- ・ 施策の柱3-4(農業・林業)では、「担い手への農用地の集積率」がC評価、「認定農業者数」がD評価となりました。茶業をはじめとする農林業をとりまく状況は厳しさを増していますが、茶の海外輸出など、新しいカタチにチャレンジする農林業者を支援し、地域の特徴を生かした「稼ぐ農林業」を目指していきます。
- ・ 施策の柱3-5(観光)では、台風の影響を受け蓬莱橋を通行規制したことにより、「観光交流客数」、「蓬莱橋利用者数」がD評価となりました。蓬莱橋や川根温泉、大井川鐵道のSLなど多彩で特色ある地域資源を生かすため、デジタルマーケティングの手法を用いて、国内外へ市内観光の魅力を発信します。
- ・ 政策分野3は、7つの政策分野の中でA、B評価の割合が一番低い結果となりました。地域経済を力強くリードするまちづくりを推進するために、各分野において一層の取組強化が求められています。

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

施策の柱		A	B	C	D	項目数
4-1	地球環境の保全に貢献する	2	1	2		5
4-2	みどり豊かな自然を守り育む	1		1	2	4
4-3	水資源と水環境を守る	2			2	4
4-4	住みよい生活環境をつくる	6	1	2	1	10
小 計		11	2	5	5	23

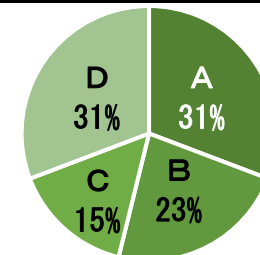


【考察】

- ・ 政策分野4のめざそう値については、56%(23項目中13項目)がA、B評価となりました。
- ・ 施策の柱4-1(新エネルギー・再生可能エネルギー・低炭素社会・資源循環型社会)では、「市民意識調査「地球環境対策や自然環境保全」における重要度」、「市民意識調査「ごみ・リサイクル対策」における重要度」がA評価となりました。COOL CHOICE事業やアース・キッズ事業等の環境啓発事業のほか生ごみ処理容器キエーロの導入、古紙リサイクルの推進等をはじめとした様々な取組が、市民の意識高揚につながりました。
- ・ 施策の柱4-2(農地保全・森林環境・緑化活動)では、「森林整備面積」、「再生利用が可能な荒廃農地面積」がD評価となりました。施策の柱3-4(農業・林業)も低い評価結果であり、環境保全の観点からも計画的な森林・農地整備推進の必要性が現れた結果となりました。
- ・ 施策の柱4-3(水環境)では、「汚水処理人口普及率」、「市内河川調査における環境基準達成率」がA評価となりました。本市の恵まれた水環境を恒久的な財産として引き継いでいくための取組の成果が現れています。
- ・ 施策の柱4-4(住宅・防犯・公共交通・交通安全・消費生活・男女共同参画・人権)では、「犯罪発生件数(刑法犯認知件数)」、「交通事故(人身事故)発生件数」、「女性の社会進出を後押しする動きが広がることについての市民意識」などがA評価となりました。安全・安心で、市民一人ひとりが互いに人権を尊重しあえる住みよい生活環境づくりに向けた取組の成果が現れた結果となりました。
- ・ 政策分野4は、7つの政策分野の中でA、B評価の割合が一番高い結果となりました。これからも本市の水とみどりに恵まれた自然環境を守り、後世に引き継ぐ取組に力を入れていきます。

政策分野5 歴史・文化かがやく、人が集まるまちづくり

施策の柱		A	B	C	D	項目数
5-1	培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める	1	1		3	5
5-2	島田を知り、好きになってもらう	2	1	1		4
5-3	人との連携・交流が生まれる地域をつくる	1	1	1	1	4
小 計		4	3	2	4	13

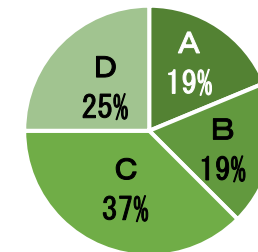


【考察】

- ・ 政策分野5のめざそう値については、54%(13項目中7項目)がA、B評価となりました。
- ・ 施策の柱5-1(歴史・文化)では、「市民意識調査「歴史を生かしたまちづくり」における市民満足度」がA評価、「市民意識調査「文化活動への支援」における市民満足度」がB評価となりました。大井川川越遺跡や諏訪原城跡のハード整備と、芸術家派遣事業や市民の文化活動に対する支援などのソフト事業の両面からのアプローチによる取組の成果が高い市民満足度に現れています。一方で、「島田市博物館入館者数(分館含む)」、「市民文化祭出展者、出演者、観客数計」はD評価にとどまっていることから、より多くの人々に本市の歴史や文化に触れてもらう機会を増やす必要があります。
- ・ 施策の柱5-2(情報発信・シティプロモーション)では、「島田市公式SNSのフォロワー数」、「島田市公式ホームページの総ページビュー数」がA評価となりました。「島田市緑茶化計画」のもと多角的に情報を発信した成果が結果として顕著に現れました。今後もデジタル技術を活用したマーケティング戦略に基づくターゲットをしばった効果的な情報発信を行い、本市の魅力度・認知度を高めていきます。
- ・ 施策の柱5-3(移住・国際交流・多世代交流)では、「県外からの移住件数」、「移住相談件数」が低い評価となりました。しかし、30歳代及び9歳以下の年代における社会動態が5年連続でプラスとなったように、本市の子育て世代から選ばれるまちづくりは着実に成果をあげています。引き続き、子育て世代をメインターゲットに選ばれるまちづくりを進めていきます。
- ・ 政策分野5は、「島田市緑茶化計画」を旗印としたシティプロモーション分野が特に高い評価となりました。今後も、デジタル技術を駆使した戦略的な情報発信や本市の魅力的な歴史・文化資源を活用し、歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくりを進めていきます。

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

施策の柱		A	B	C	D	項目数
6-1	安全で快適な生活基盤を整える	2	2	2		6
6-2	地域と地域の活発な交流を支える道をつくる			2	1	3
6-3	便利で魅力あるまちの拠点をつくる	1	1	2	3	7
小 計		3	3	6	4	16

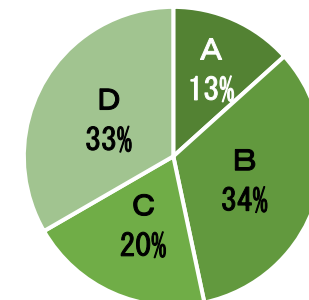


【考察】

- ・ 政策分野6のめざそう値については、38%(16項目中6項目)がA、B評価となりました。
- ・ 施策の柱6-1(生活道路・河川・公園・上下水道等・通信)では、「市民意識調査「上下水道の整備」における市民満足度」、「超高速ブロードバンド 世帯カバー率」がA評価となるなど、全体的に高い評価となりました。今後も、安全で快適な生活基盤を整えるために計画的な整備を推進していきます。
- ・ 施策の柱6-2(幹線道路)では、「都市計画道路の整備概成率」がC評価となるなど、低い評価となっています。陸・海・空の結節点である本市の強みを生かしたまちづくりを推進するため、主要広域幹線道路の整備について国・県に働きかけていくとともに、それを補完する幹線道路(市道)の整備を計画的に進めていきます。
- ・ 施策の柱6-3(都市計画)では、新東名島田金谷インターチェンジ周辺の土地利用が具現化したことから「市民意識調査「計画的な土地利用の推進」における市民満足度」がA評価となっています。また、「市民意識調査「公共交通機関の充実」における六合地区満足度」はD評価となっていますが、今後の六合駅駅前広場の整備により評価の改善が期待されます。
- ・ 政策分野6は、現状ではA、B評価が少なかったものの、今後の事業進捗により評価上昇が見込めるめざそう値が多くあります。今後も着実に、ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくりを推進していきます。

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

施策の柱		A	B	C	D	項目数
7-1	みんなの協力でまちをつくる	1	1		2	4
7-2	安定的・継続的な市民目線の行財政運営を進める	1	2		1	4
7-3	都市間連携による地域の活性化を進める		1	2		3
7-4	公共施設を賢く持って、賢く使う		1	1	2	4
小 計		2	5	3	5	15

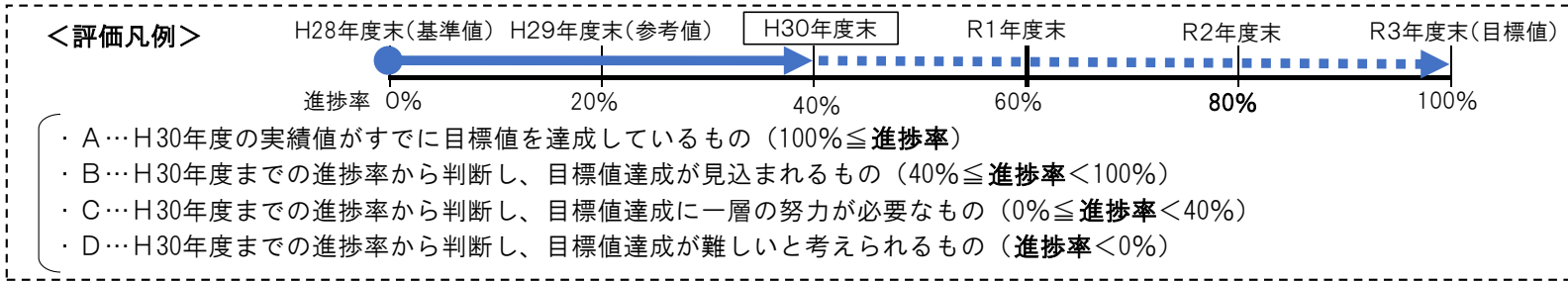


【考察】

- ・ 政策分野7のめざそう値については、47%(15項目中7項目)がA、B評価となりました。
- ・ 施策の柱7-1(市民協働)では、市内高校との連携により若い世代の参加機会を設けたことで、「平和祈念式典参加者数」がA評価となりました。また、「市民活動団体登録数」がB評価となり、市民参加による地域主体のまちづくりの広がりが見られた結果となりました。
- ・ 施策の柱7-2(行財政改革・人材育成・情報公開)では、多様化する市民ニーズに応えようとする職員意識の高まりにより、「公募研修の応募者割合」がA評価となりました。また、市民の利便性向上を図るためオンラインサービスを拡充し、「電子申請システム手続種別件数」がB評価となりました。
- ・ 施策の柱7-3(広域連携)では、「広域連携関連事業の「めざそう値」達成度」がC評価となりました。人口減少や少子高齢化が進む中で、行政サービスを維持しつつ新たな行政ニーズへ柔軟に対応していくためにも、多様な分野・多様な形での連携をさらに推進する必要があります。
- ・ 施策の柱7-4(公共施設の保全・再編・利活用)では、「公共施設管理運営費の市民1人当たりの負担額」、「公共施設の資産老朽化比率」がD評価となりました。公共施設の品質、保有量、管理費の適正化を計画的に進め、ムリ・ムラ・ムダのない公共施設の経営を目指す必要があります。
- ・ 政策分野7では、広域連携、公共施設の保全・再編・利活用の分野で低い結果となりました。人口減少社会に挑戦する経営改革を進めるために、さらなる取組が求められる結果となりました。

「めざそう値」の進捗率からみる評価について

- 前期基本計画で設定した、R3年度を着地点とする「めざそう値」について、H30年度までの進捗率から取組に対する評価をした。
- 「めざそう値」に対する実績値で、A・B・C・Dの4段階で評価した。



※ 「要介護・要支援認定率」(P16)、「結婚支援事業マッチング成立数(年間)」(P18)、「地域公共交通 利用者数(年間)」(P34)及び「島田市博物館入場者数(分館含む)(年間)」(P36)については、上記の4段階評価に当てはまらないため、例外的な取扱いとして、目標値以上になった場合はA、目標値未満となった場合はDという2段階で評価しています。

「めざそう値」評価例について

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価
		H28	H29 (参考)	H30	R1	R2	R3	
26	市民意識調査「障害者が生活しやすい環境づくり」における市民満足度	18.8%	16.2%	20.7%	%	%	20.0%	A
	(1-4) 弱い立場の人を支えあう	33.1%	30.5%	41.6%	%	%	35.1%	
	3. 障害の相互理解と障害のある人の社会参加を促進します	【主な取組内容・成果・要因】 一人ひとりの障害の特性や程度に応じた相談支援や障害福祉サービスの提供を行った結果、障害者が生活しやすい環境づくりに対する市民満足度が上昇し、目標値を上回った。 【今後の方向性】 加齢や環境の変化等に伴い、障害者に対する支援方法は随時見直しが必要となるため、一人ひとりに寄り添った支援を継続していく。						福祉課

「めざそう値」指標

H30年度の実績値

最終目標値(めざそう値)

進捗率の評価 (A,B,C,D)

市民意識調査の結果をめざそう値としているものは数値を2段階としている。上段は回答者全体のうち、肯定的な回答の割合、下段は「わからない」、「無回答」を除いた中で肯定的な回答の割合となっている。なお、進捗率に基づく評価は下段を用いている。

施策と内容

施策の柱

「主な取組内容・成果・要因」、「今後の方向性」について補足説明を記載している。

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課																							
1	防災メール登録者数（H26年度からの累計） （1-1）ここに住むすべての人の安全な生活を守る	3,900人	4,233人	5,000人	人	人	6,500人	B	<table border="1"> <caption>防災メール登録者数</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>3,900</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>4,233</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>5,000</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>6,500</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>6,500</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>6,500</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	3,900		H29	4,233		H30	5,000		R1		6,500	R2		6,500	R3		6,500
年度	実績	目標																												
H28	3,900																													
H29	4,233																													
H30	5,000																													
R1		6,500																												
R2		6,500																												
R3		6,500																												
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 防災メールについてのPR活動やメール登録へのサポートに取り組んだことで、登録者数は順調に増加した。 【今後の方向性】 防災メールは防災情報を迅速に伝える有効な手段であるため、防災イベントや各課が主催する会議等の場を活用したPR活動や登録サポートのキャンペーン等を行い、更なる登録者数の増を目指す。</p>					危機管理課																							
2	防災マイスター育成講座修了者数（H27年度からの累計） （1-1）ここに住むすべての人の安全な生活を守る 1. 危機管理体制の実効性を向上させます	77人	111人	143人	人	人	230人	B	<table border="1"> <caption>防災マイスター育成講座修了者数</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>77</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>111</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>143</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>230</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>230</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>230</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	77		H29	111		H30	143		R1		230	R2		230	R3		230
年度	実績	目標																												
H28	77																													
H29	111																													
H30	143																													
R1		230																												
R2		230																												
R3		230																												
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 当事業の意義が浸透し、全12回の講座の中で受講者のほぼ全員に修了証（バッジ）を授与しているため、修了者数は着実に増加している。これまでの庁内各所属からの推薦者（職員）のほか、平成30年度からは一般市民の受講受け入れを開始し、人材育成の裾野を拡大した。 【今後の方向性】 令和2年度に防災マイスター育成講座は6年目を迎える。課目の選定や対象者の範囲を大幅に見直すことで即戦力となる人材を育成していく。</p>					危機管理課																							
3	地域の防災訓練参加率 （1-1）ここに住むすべての人の安全な生活を守る 2. 地域防災力の維持・向上の取り組みを加速します	50.29%	59.92%	54.01%	%	%	52.0%	A	<table border="1"> <caption>地域の防災訓練参加率</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>50.29%</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>59.92%</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>54.01%</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>52.0%</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>52.0%</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>52.0%</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	50.29%		H29	59.92%		H30	54.01%		R1		52.0%	R2		52.0%	R3		52.0%
年度	実績	目標																												
H28	50.29%																													
H29	59.92%																													
H30	54.01%																													
R1		52.0%																												
R2		52.0%																												
R3		52.0%																												
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 自主防災会長・委員長会議の際に訓練趣旨の説明と訓練への参加を呼びかけた。また、広報紙への特集記事の掲載や、出前講座の実施により、市民の防災に対する意識が高まった。前年度に比べ参加率は低下したが、めざそう値を上回る水準は維持している。 【今後の方向性】 なるべく多くの市民が参加しやすい日時や場所を提案する。また、市の防災訓練実施日以外に、地域の防災訓練に職員が出向き、自主防災組織の支援を行う取組をさらに進めていく。</p>					危機管理課																							
4	静岡県ふじのくにジュニア防災士認定者数（H28年度からの累計） （1-1）ここに住むすべての人の安全な生活を守る 2. 地域防災力の維持・向上の取り組みを加速します	314人	1,173人	1,989人	人	人	4,000人	B	<table border="1"> <caption>静岡県ふじのくにジュニア防災士認定者数</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>314</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>1,173</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>1,989</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>4,000</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>4,000</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>4,000</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	314		H29	1,173		H30	1,989		R1		4,000	R2		4,000	R3		4,000
年度	実績	目標																												
H28	314																													
H29	1,173																													
H30	1,989																													
R1		4,000																												
R2		4,000																												
R3		4,000																												
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 市内7つの中学校で毎年800人を超す生徒が認定を受けている。さらに、平成29年度からは小学生のジュニア防災士も誕生している。本事業を通じて地域防災力の担い手である小・中学生の防災意識の高揚を図るとともに、地域の災害対応力向上に寄与した。 【今後の方向性】 今後も更に認定者数を確保するために、県中部地域局と連携して資格取得に係る防災講座の充実を図るとともに、防災訓練や自主防災活動への積極的な活動を促すことで地域防災の核となる人材の育成を進めていく。</p>					危機管理課																							

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
5	一般住宅の耐震化率	80.8 %	81.5 %	82.1 %	%	%	95.0 %	C	
	(1-1) ここに住むすべての人の安全な生活を守る 3. 市民の安全確保を確実にする条件整備を進めます	【主な取組内容・成果・要因】 昭和56年以前に建築された木造住宅の耐震補強計画策定や耐震補強工事に対して補助金を交付し、住宅の耐震化率を向上させるための取組を実施している。この制度を利用して、平成30年度は69戸の木造住宅の耐震性が向上したが、目標値の達成には更なる取組が必要と考える。 【今後の方向性】 今後は、既に耐震診断を受けている住宅を掘り起こし、耐震補強工事に誘導するような取組が必要である。また、耐震補強計画の策定まで実施しながら工事を止めてしまうケースもあるため、平成31年度から耐震補強計画の策定から耐震補強工事までを一体で実施する住宅に対して補助金を交付する新たな補助制度を創設した。					建築住宅課		
6	関係機関との合同訓練等の連携団体数 (年間延べ団体数)	20 団体	42 団体	28 団体	団体	団体	25 団体	A	
	(1-1) ここに住むすべての人の安全な生活を守る 4. 広域の消防救急体制を含め、関係機関等との連携体制を充実強化します	【主な取組内容・成果・要因】 総合防災訓練、水防訓練、消防団訓練等において、従来の訓練を精査し、より実践的な内容としたことで、関係機関及び関係団体との連携体制を確認することができた。また、自衛隊の災害時応援部隊等の現地偵察を積極的に受け入れ、情報を共有することができた。 【今後の方向性】 引き続き、関係機関及び関係団体との連携体制を充実させ、必要に応じて新たな災害応援協定の締結を進めるとともに、協定に基づく活動要領の検証により、有事の際における市民の命と暮らしを守る体制を整えていく。					危機管理課		
7	市民意識調査「健康の増進（健康診断や予防対策）」における市民満足度	58.0 %	50.7 %	64.3 %	%	%	60.0 %	A	
	(1-2) 健康で自分らしく暮らす	【主な取組内容・成果・要因】 地区開催の健康講座や健康まつりで、健康増進や生活習慣病予防、健(検)診受診を啓発した。平成26年度に開始した「しまだ健康マイレージ事業」は、年々参加者が増加しており、健康づくりに取り組む市民が増えていると考えられる。 【今後の方向性】 満足度を維持できるよう、随時施策を評価し改善しながら展開する。令和元年度から5年度までの「第3次島田市健康増進計画」及び「第3次島田市食育推進計画」、「島田市自殺対策計画」に基づき施策を展開していく。					健康づくり課		
8	国民健康保険事業特定保健指導実施率	88.5 %	81.1 %	%	%	%	88.5 %	D	
	(1-2) 健康で自分らしく暮らす 1. 健康の保持増進を促進します	(実績値の確定が毎年翌年12月となるため、今回は平成29年度の実績について評価検証を行った。) 【主な取組内容・成果・要因】 国の定める目標値60%は大きく上回ったが、基準値より実績値が下がる結果となった。要因としては、特定健診受診率の上昇により特定保健指導が必要とされた対象者数が増えたことがあげられる。なお、特定保健指導の実施数は前年度から増加している。 【今後の方向性】 特定保健指導の実施数を増やすための方策を検討する必要がある。					国保年金課		

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
	施策の柱 施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
9	健幸アンバサダー数（H30年度からの累計）	一人	一人	159人	人	人	800人	C	
	(1-2) 健康で自分らしく暮らす 1. 健康の保持増進を促進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 11月と1月の計2回、主に保健委員協議会及び健康づくり食生活推進協議会の会員対象として健幸アンバサダー養成講座を実施し、認定者数獲得に寄与した。 【今後の方向性】 健康無関心層に対し、正しい健康情報を伝えることができる伝道師的な役割を担う市民を増やしていくことを目的に、今後も広く市民に啓発を行うとともに健幸アンバサダー養成講座を継続して実施することで認定者数の増加を図る。</p>					健康づくり課		
10	朝食を食べてくる子供の割合（5日間朝食を毎日食べた子供の割合）①小学校	92.9%	92.0%	96.1%	%	%	95.0%	A	
	(1-2) 健康で自分らしく暮らす 2. 食育を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 栄養教諭を派遣する「食の指導」の授業を全ての小学校で実施し、その回数も増やしている。その結果が、目標値の達成につながったものと考えられる。 【今後の方向性】 平成29年度に行った食育アンケートによれば、朝食は食べているものの、その内容や栄養に問題があることがわかった。朝食の栄養バランス指導については、重要取組事項の一つとして、継続して取り組んでいく。そして、懇談会や家庭教育学級等の場で、保護者へ朝食の重要性について啓発していく必要がある。</p>					学校教育課		
11	朝食を食べてくる子供の割合（5日間朝食を毎日食べた子供の割合）②中学校	90.7%	85.2%	95.5%	%	%	93.0%	A	
	(1-2) 健康で自分らしく暮らす 2. 食育を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 栄養教諭を派遣する「食の指導」の授業を全ての中学校で実施し、その回数も増やしている。その結果が、目標値の達成につながったものと考えられる。 【今後の方向性】 平成29年度に行った食育アンケートによれば、朝食は食べているものの、その内容や栄養に問題があることがわかった。朝食の栄養バランス指導については、重要取組事項の一つとして、継続して取り組んでいく。そして、懇談会や家庭教育学級等の場で、保護者へ朝食の重要性について啓発していく必要がある。</p>					学校教育課		
12	新市民病院建設事業進捗率（H28年度からの累計）	0.7%	2.5%	7.9%	%	%	97.3%	C	
	(1-2) 健康で自分らしく暮らす 3. 新市立島田市民病院の建設を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 令和4年度までの総事業費の割合をめざそう値としているため、表面上の達成率は低いですが既に工事は着工しており、病院建設工事自体は着実に進捗している。 【今後の方向性】 工期の徹底、責任の明確化、安全性と施工効率、品質・性能確保、近隣及び周辺環境に配慮して建設を進めていく。また、診療に配慮した施工対策を行い、地元活用提案や技術提案の履行を施工者へ促していく。設計変更に伴うコストの増額を抑制し、開院に向けたソフト的な準備をする。</p>					病院建設課		

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
13	市民意識調査「医療の充実」における市民満足度	34.7 % 40.8 %	31.2 % 37.9 %	35.5 % 40.1 %	% %	% %	45.0 % 50.0 %	D	
	(1-2) 健康で自分らしく暮らす 4. 地域医療の充実と確保を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 救急患者の受け入れ、入退院支援室の設置、島田市の24時間訪問看護ステーションの設置、地域包括支援センター等の専門職を対象にした相談支援窓口の開設、医療と介護の連携を促進するための取組となる「看守連携事業」などを実施したことにより、前年度に比べ満足度は上昇している。</p> <p>【今後の方向性】 急性期を担う病院として医療機能の向上に努めるとともに、地域の医療・介護機関と連携し入退院支援体制の充実を図っていく。</p>							
14	市民病院の医師数（年度末時点）	88 人	82 人	82 人	人	人	100 人 2023年度	D	
	(1-2) 健康で自分らしく暮らす 4. 地域医療の充実と確保を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 必要な医師数を確保するため、京都大学や浜松医科大学などを市長や事業管理者などが訪問し、医師確保に関する協力を依頼した。その他、医学生修学資金制度を継続し、将来的な医師確保に取り組んでいる。いずれにしても、即効性があるものでなく、時間を要するため、現在のところ実績には反映していない。</p> <p>【今後の方向性】 引き続き訪問を行い、関連する大学との良好な関係を継続していく。また、医学生修学資金貸与制度の新規貸与者の予算枠を増やし、医師確保に努めていく。新病院建設に関しては医師の要望や意見を取り入れ、働きやすい環境づくりを進めていく。</p>							
15	市民意識調査「高齢者の医療・介護・福祉の充実」における市民満足度	33.1 % 41.1 %	28.5 % 39.0 %	38.2 % 49.3 %	% %	% %	34.1 % 42.0 %	A	
	(1-3) 生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす	<p>【主な取組内容・成果・要因】 主要な取組の1つである「しまトレ」について、地域包括支援センターの支援や広報しまだ等の周知、また、自治会・町内会及び老人クラブなどの協力により順調に実施箇所数を増やすことができたことが、市民満足度の上昇につながった。</p> <p>【今後の方向性】 誰もが住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすことができる医療・介護・住まい・生活支援が一体となった「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、本施策の柱の「めざそう値」と関連する「地域高齢者見守りネットワークづくり」、「要支援認定者等の認定区分改善」、「在宅等看取り」についてさらに推進していく。</p>							
16	しまトレ実施箇所数（H29年度からの累計）	— 箇所	29 箇所	69 箇所	箇所	箇所	120 箇所	B	
	(1-3) 生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす 1. 自立した生活と健康寿命の延伸を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 自治会や町内会、老人クラブを中心に様々な地域でしまトレが立ち上がった。地域包括支援センターの支援、広報しまだ等で周知したこと、しまトレ実施箇所が大幅に増加した。しかし、まだ地域活動の場がない地域があるため、さらに推進していく必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 今後は各自治会・町内会への積極的にしまトレのPRを行ってだけでなく、介護事業所等でも実施できるよう支援を行っていく。</p>							

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																						
17	住民主体の生活支援サービス（家事支援等）実施団体数（H28年度からの累計） （1-3）生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす 2. 多様な主体による生活支援体制を整備します	1 団体	2 団体	2 団体	団体	団体	3 団体	B	<table border="1"> <caption>実績値 (団体数)</caption> <tr><th>年度</th><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td></tr> <tr><th>実績</th><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>3</td></tr> </table>	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	実績	1	2	2	3			目標						3
年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3																								
実績	1	2	2	3																										
目標						3																								
								包括ケア推進課																						
18	地域高齢者見守りネットワーク協力事業所数（H23年度からの累計） （1-3）生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす 3. 安心して暮らせる環境整備を推進します	108 事業所	117 事業所	133 事業所	事業所	事業所	190 事業所	C	<table border="1"> <caption>実績値 (事業所数)</caption> <tr><th>年度</th><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td></tr> <tr><th>実績</th><td>108</td><td>117</td><td>133</td><td>190</td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>190</td></tr> </table>	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	実績	108	117	133	190			目標						190
年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3																								
実績	108	117	133	190																										
目標						190																								
								長寿介護課																						
19	要支援認定者等の認定区分改善率 （1-3）生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす 4. 心身の状態変化に応じた包括的支援を推進します	— %	40.6 %	33.3 %	%	%	60.0 %	B	<table border="1"> <caption>実績値 (改善率)</caption> <tr><th>年度</th><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td></tr> <tr><th>実績</th><td>0</td><td>40.6</td><td>33.3</td><td>60.0</td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>60.0</td></tr> </table>	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	実績	0	40.6	33.3	60.0			目標						60.0
年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3																								
実績	0	40.6	33.3	60.0																										
目標						60.0																								
								包括ケア推進課																						
20	認知症カフェ実施箇所数（H29年度からの累計） （1-3）生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす 4. 心身の状態変化に応じた包括的支援を推進します	— 箇所	2 箇所	8 箇所	箇所	箇所	5 箇所	A	<table border="1"> <caption>実績値 (実施箇所数)</caption> <tr><th>年度</th><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td></tr> <tr><th>実績</th><td>0</td><td>2</td><td>8</td><td>5</td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>5</td></tr> </table>	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	実績	0	2	8	5			目標						5
年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3																								
実績	0	2	8	5																										
目標						5																								
								包括ケア推進課																						

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課																							
21	在宅等看取りの率	37.2 %	37.8 %	37.1 %	%	%	40.0 %	D	<table border="1"> <caption>在宅等看取りの率</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>37.2</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>37.8</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>37.1</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>40.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	37.2		H29	37.8		H30	37.1		R1			R2			R3		40.0
	年度	実績	目標																											
H28	37.2																													
H29	37.8																													
H30	37.1																													
R1																														
R2																														
R3		40.0																												
(1-3) 生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす 4. 心身の状態変化に応じた包括的支援を推進します		【主な取組内容・成果・要因】 地域医療を担う医師不足が深刻な状況にある中で、24時間対応可能な訪問看護体制への移行、医師不在時のバックアップ体制の構築、医療材料提供体制の整備など、地域医療を支える医師の負担軽減につながる支援策を構築してきた。しかし、在宅看取りを希望しながら、病状の急変により病院死となる事例もあるため、実績値は伸びていない。一方で、医師不在時のバックアップ支援を活用して、在宅看取りができた事例もあるため、達成率に表れない効果はある。 【今後の方向性】 高齢化が進み在宅医療を必要とする患者が増大し、地域の診療所への期待が増す一方で、地域医療を担う医師不足は深刻な状況がある。引き続き島田医師会と連携し、診療所の医師に対して、医療を取り巻く環境などの情報提供及び在宅医療への参画についてアンケートを実施するなど、課題を一つずつ解決できるような取組を進めていく。					包括ケア推進課																							
22	要介護・要支援認定率	12.13 %	12.75 %	13.05 %	%	%	12.75 % 以下	D	<table border="1"> <caption>要介護・要支援認定率</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>12.13</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>12.75</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>13.05</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>12.75</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	12.13		H29	12.75		H30	13.05		R1			R2			R3		12.75
	年度	実績	目標																											
H28	12.13																													
H29	12.75																													
H30	13.05																													
R1																														
R2																														
R3		12.75																												
(1-3) 生涯を通じて誰もが生きがいを持ち安心して暮らす 5. 介護保険サービスの適切な提供を推進します		【主な取組内容・成果・要因】 65歳以上の高齢者人口の増加、さらに平成30年度は総合事業の見直しに取り組んだことにより事業対象者から要介護申請に移行した人が増加したため、認定率は上昇した。 【今後の方向性】 今後も適正な要介護（要支援）認定に努める。					長寿介護課																							
23	市民意識調査「福祉環境がよい」と感じる市民の割合	69.1 %	65.6 %	65.1 %	%	%	80.0 %	D	<table border="1"> <caption>市民意識調査「福祉環境がよい」と感じる市民の割合</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>77.2</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>76.2</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>73.2</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>87.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	77.2		H29	76.2		H30	73.2		R1			R2			R3		87.0
	年度	実績	目標																											
H28	77.2																													
H29	76.2																													
H30	73.2																													
R1																														
R2																														
R3		87.0																												
(1-4) 弱い立場の人を支えあう		【主な取組内容・成果・要因】 扶助費の支出が年々増加しているが、福祉環境に満足している市民の割合が下がっている。経済的な支援だけでなく、地域で安心して暮らすことができる環境を整えていく必要がある。 【今後の方向性】 弱い立場の人が地域で安心して生活するために、関係機関や地域の方々と連携し、課題の解決を目指していく。					福祉課																							
24	地区社会福祉協議会の設置数（年度末時点）	11 件	11 件	11 件	件	件	20 件	C	<table border="1"> <caption>地区社会福祉協議会の設置数</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>20</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	11		H29	11		H30	11		R1			R2			R3		20
	年度	実績	目標																											
H28	11																													
H29	11																													
H30	11																													
R1																														
R2																														
R3		20																												
(1-4) 弱い立場の人を支えあう 1. 地域福祉活動を積極的に推進します		【主な取組内容・成果・要因】 「生活支援をつなぐ会」などを通じて生活支援コーディネーターを中心とした意見交換や勉強会等を実施したが、小地域福祉活動に対する理解を得ることは難しく、地区社会福祉協議会設立に至らなかった。 【今後の方向性】 社会福祉協議会や庁内関係課と連携し、今後も未設置地区への働きかけを進めていく。					福祉課																							

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
25	生活困窮者の自立相談支援件数（年間）	58 件	55 件	62 件	件	件	70 件	C	
	(1-4) 弱い立場の人を支えあう 2. 自立した生活を送ることができるよう支援します	【主な取組内容・成果・要因】 生活困窮者が早い段階で自立に向けた相談を受けられるよう民生委員等へ周知した。さらに、実施機関において相談者に対し積極的な支援を行った結果、自立計画（プラン）作成数が増加した。 【今後の方向性】 事業の周知を継続するとともに、家計改善支援事業などや関係機関との連携強化により、継続的で効果的な自立支援を行っていく。					福祉課		
26	市民意識調査「障害者が生活しやすい環境づくり」における市民満足度	18.8 % 33.1 %	16.2 % 30.5 %	20.7 % 41.6 %	% %	% %	20.0 % 35.1 %	A	
	(1-4) 弱い立場の人を支えあう 3. 障害の相互理解と障害のある人の社会参加を促進します	【主な取組内容・成果・要因】 一人ひとりの障害の特性や程度に応じた相談支援や障害福祉サービスの提供を行った結果、障害者が生活しやすい環境づくりに対する市民満足度が上昇し、目標値を上回った。 【今後の方向性】 加齢や環境の変化等に伴い、障害者に対する支援方法は随時見直しが必要となるため、一人ひとりに寄り添った支援を継続していく。					福祉課		
27	計画相談支援の利用者数（年間）	844 人	869 人	873 人	人	人	985 人	C	
	(1-4) 弱い立場の人を支えあう 4. 障害福祉サービスの充実を図ります	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度から、新たな障害福祉サービス「就労定着支援」が開始され、計画相談支援利用者の増加につながった。 【今後の方向性】 障害福祉サービスを利用する全ての障害者に対してサービス等利用計画の作成が必須となっているため、福祉関係事業所の協力を得ながら、相談支援体制を充実させる必要がある。					福祉課		
28	障害者雇用率	1.97 %	1.67 %	1.90 %	%	%	2.30 %	D	
	(1-4) 弱い立場の人を支えあう 5. 障害者雇用・就労を促進します	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度に障害者の法定雇用率が引き上げられ、ハローワークをはじめとする関係機関と連携し、企業等（雇用側）へ障害者雇用への理解を求めているものの、雇用率改善には至っていない。 【今後の方向性】 障害特性が一人ひとり異なるため、単純に取組が実績に繋がるとは限らないが、ハローワークをはじめとする関係機関と連携して引き続き支援していくことで、目標達成を目指していきたい。					福祉課		

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
1	市民意識調査「保育環境の充実や子育てへの支援」における市民満足度	41.0 %	33.0 %	40.9 %	%	%	45.0 %	B	
	(2-1) 子どもを生み育てやすい環境をつくる	55.7 %	53.2 %	57.7 %	%	%	60.3 %		
		【主な取組内容・成果・要因】 ファミリー・サポート・センター会員数は増加、保育所等の待機児童数はゼロとなるなど、子どもを生み育てやすい環境づくりにかかる取組が評価されたものと思われる。しかし、市民意識調査回答者の29%にあたる子育て世代（20歳～40歳）の「満足」は40.9%だが、「わからない」が20歳代で44%、30歳～40歳代で23%あり、未婚や子どもがいない等で子育て施設や支援についての情報を知らない人も多いと思われる。 【今後の方向性】 子育てガイドブックやしまいくLINE等により子育て情報を発信するとともに、引き続き妊娠期から育児不安や負担軽減になる取組を行い、切れ目のない支援をしていく。						子育て応援課	
2	結婚支援事業マッチング成立数（年間）	37 組	29 組	13 組	組	組	31 組	D	
	(2-1) 子どもを生み育てやすい環境をつくる								
1. 家庭を持ちたくなる環境づくりを推進します		【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、従前まで個別に開催していた「出会うためのスキルアップ講座」「婚活イベント」「結婚支援ボランティアによるアドバイス」を一日のイベントに集約して実施し、イベント後も参加者を継続的に支援することができた。 【今後の取組】 市が主体となって実施する婚活イベントは平成30年度で終了とした。今後は結婚支援ボランティアや関係機関との情報交換会を継続開催し、情報などを共有しつつ、結婚支援ボランティア同士の連携や活動を支援していく。						子育て応援課	
3	ファミリーサポートセンター会員数（年度末時点）	415 人	437 人	446 人	人	人	424 人	A	
	(2-1) 子どもを生み育てやすい環境をつくる								
2. 子育てを温かく見守る環境をつくりまします		【主な取組内容・成果・要因】 子育て支援センターや幼稚園などへチラシを配布し、事業内容や会員の種類について周知することで会員の増加へとつながった。委託会員・受託会員ともに増加しているが、受託会員が委託会員の半数以下にとどまり、受託会員の確保が課題である。 【今後の方向性】 会員募集とあわせて受託会員を育成するための会員研修会について、継続して広報紙やホームページなどで周知していく。また、引き続き、子育て支援センター等へのチラシ配布などにより、事業周知と会員増加に努める。						子育て応援課	
4	子育て世代包括支援センターてくてくの相談件数（年間）	337 件	368 件	360 件	件	件	500 件	C	
	(2-1) 子どもを生み育てやすい環境をつくる								
3. 安心できる母子保健体制等を整えます		【主な取組内容・成果・要因】 「てくてく通信」というチラシを作成し母子手帳交付時に配付したほか、島田市子育て応援サイト「しまいく」への掲載により相談窓口の周知を図った。平成29年度と比較すると相談件数は微減したが、周知の結果比較的高い水準で相談件数は確保でき、妊娠期から出産、子育て期にわたるまでの切れ目のない支援はできている。 【今後の方向性】 今後も相談窓口の周知を積極的に進める。さらに父母や子どもにとって保健師がより身近な存在となり、家族に寄り添った支援ができるよう、妊娠期から就学前の子どものいる家庭へ担当保健師を配置する「島田市版ネウボラ」に関する取り組みを進め体制を強化していく。						健康づくり課	

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
5	保育所等の年度当初における待機児童数	24人	20人	0人	人	人	0人	A	
	(2-1) 子どもを生み育てやすい環境をつくる 4. 子育てのしやすい環境を整えます	【主な取組内容・成果・要因】 幼稚園の認定こども園化、小規模保育事業所の開設により、平成30年4月から定員が214人増加し、平成30年4月1日時点での待機児童数は0人となった。また、分園の開設、小規模保育事業所の開設により、平成30年度途中で定員が49人増加した。 【今後の方向性】 令和元年9月に小規模保育事業所の移転に伴う定員増に加え、11月には旧島田地区及び初倉地区において小規模保育事業所が開所することから、合計31人の定員増となる予定となっている。3歳児以上は幼稚園、保育所等を合わせると十分な定員が確保されているため、保護者の就労等にマッチした幼稚園の預かり保育拡充について、幼稚園に要請していく必要がある。					保育支援課		
6	島田に住み続けたい人の割合（成人式アンケート）	57.5%	54.0%	49.1%	%	%	63.0%	D	
	(2-2) 地域ぐるみの教育環境をつくる 1. 地域全体で学校教育を支援します	【主な取組内容・成果・要因】 年々島田市に住み続けたい成人の割合が減少している。当市に住み続けるための条件として「仕事があること」が高い割合を占めていることから、若い世代には、当市に仕事がないと思われてしまっている。その要因としては、島田市にどのような企業・産業があるのかを知らないことであり、今後、市内の企業や産業の魅力や強みについて、中学生の段階から知るきっかけをつくり、地元への愛着心を醸成していくことが重要だと考える。 【今後の方向性】 成人式アンケートにおける「島田市に住み続けるために島田をどんなまちにしたいか」の設問に対する回答に基づき、現状分析をし、対策を講じていく必要がある。					社会教育課		
7	学校支援地域本部事業等ボランティア活動延べ人数（年間）	118人	74人	245人	人	人	370人	B	
	(2-2) 地域ぐるみの教育環境をつくる 1. 地域全体で学校教育を支援します	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度から、「しまだはつくら寺子屋」で地元の中学生や高校生のボランティアを積極的に受け入れており、活動人数は着実に増加している。地域ぐるみの教育環境整備ができつつあり、引き続き、地域と連携した活動に注力していく。 【今後の方向性】 「しまだはつくら寺子屋」での中学生、高校生のボランティア受け入れを積極的に行い、学びの循環ができる環境づくりに努めていく。					社会教育課		
8	将来夢や目標を持っている子供の割合 ①小学校	85.3%	82.7%	83.4%	%	%	88.0%	D	
	(2-2) 地域ぐるみの教育環境をつくる 2. 地域の人・資源を活かした学びの場をつくります	【主な取組内容・成果・要因】 小学校では教科や統合的な学習の時間等で地域の方をゲストティーチャーとして招き地域の大人と接する機会を継続的に確保している。そのため、将来の目標となる大人の姿を見つけたり、将来の自分に関心を持つ児童の割合は比較的安定しているが、目標値の達成には更なる工夫が必要である。 【今後の取組】 今後も地域の方をゲストティーチャーとして招く授業など地域での学習を教育活動に継続的に取り込み、児童にとって目標となる大人と関わる機会、将来について考える機会を積極的ににつくっていく。					学校教育課		

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
9	将来夢や目標を持っている子供の割合 ②中学校	71.1 %	69.9 %	72.0 %	%	%	72.0 %	A	
	(2-2) 地域ぐるみの教育環境をつくる 2. 地域の人・資源を活かした学びの場をつくりまします	【主な取組内容・成果・要因】 中学校ではキャリア教育において様々な職業を体験する機会を継続的に確保している。そのため、将来の目標となる大人の姿を見つけたたり、将来の自分に関心を持つ生徒の割合は比較的安定している。 【今後の取組】 今後も職業体験など地域での学習を教育活動に継続的に取り込み、生徒にとって目標となる大人と関わる機会、将来について考える機会をつくっていく。						学校教育課	
10	市民意識調査「小・中学校教育の充実」における市民満足度	47.2 % 66.3 %	42.2 % 66.5 %	42.0 % 65.5 %	%	%	60.0 % 76.7 %	D	
	(2-2) 地域ぐるみの教育環境をつくる 3. 地域ぐるみで望ましい教育環境の実現を目指します	【主な取組内容・成果・要因】 市民満足度の結果では、「わからない」「無回答」の割合が約36%あり、小中学校の様子が市民にとってわかりづらい現状があると思われる。実績値は概ね横ばいとなっており、目標値の達成には更なる努力が必要である。 【今後の方向性】 これまでどおり、子供たちにとって楽しく授業がわかりやすい学校づくりに地道に取り組んでいくとともに、学校の取組について地域の方に知っていただいたり、地域の方と連携して子供たちを育てることができるよう、学校と地域の方が関わる機会を増やしていく。						学校教育課	
11	学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合 ①小学校	91.1 %	89.7 %	89.7 %	%	%	92.0 %	D	
	(2-3) 豊かな心を育む教育を進める	【主な取組内容・成果・要因】 学びの楽しさを味わえる「個に焦点を当てた授業」づくりや、個々の発達特性に応じた支援、互いのよさを認め合い高めあう活動が、学校が楽しいと感じる児童の高い割合へつなげていると考えるが、目標値の達成には至らなかった。 【今後の方向性】 今後は、新学習指導要領の完全実施を踏まえながら、各学校で学びの楽しさを味わえる「個に焦点を当てた授業」づくりに取り組む。また、個々の発達特性に応じた適切な支援、互いのよさを認め合い高めあう活動の設定等にも継続して取り組む。						学校教育課	
12	学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合 ②中学校	86.0 %	88.8 %	89.1 %	%	%	88.0 %	A	
	(2-3) 豊かな心を育む教育を進める	【主な取組内容・成果・要因】 学びの楽しさを味わえる「個に焦点を当てた授業」づくりや、個々の発達特性に応じた支援、互いのよさを認め合い高めあう活動が、学校が楽しいと感じる生徒の高い割合へつなげていると考える。 【今後の方向性】 今後は、新学習指導要領の完全実施を踏まえながら、各学校で学びの楽しさを味わえる「個に焦点を当てた授業」づくりに取り組む。また、個々の発達特性に応じた適切な支援、互いのよさを認め合い高めあう活動の設定等にも継続して取り組む。						学校教育課	

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																						
13	ALTによる外国語の授業が楽しいと感じる児童・生徒の割合①小学校	94.0 %	88.0 %	88.7 %	%	%	95.0 %	D	<table border="1"> <caption>Item 13 Performance Data</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual (実績)</th><th>Target (目標)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>94.0</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>88.0</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>88.7</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>95.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>95.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>95.0</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual (実績)	Target (目標)	H28	94.0		H29	88.0		H30	88.7		R1		95.0	R2		95.0	R3		95.0
	Year	Actual (実績)	Target (目標)																											
H28	94.0																													
H29	88.0																													
H30	88.7																													
R1		95.0																												
R2		95.0																												
R3		95.0																												
(2-3) 豊かな心を育む教育を進める 1. 子供たちの成長を支える教育環境を構築します	【主な取組内容・成果・要因】 小学校ではALTとの授業の時間数は増えたが、中学校に比べ担任とALTとの連携した授業づくりに関する経験はまだ浅い。そのことが「楽しい」と感じる児童の割合が上がらなかった要因と考えられる。 【今後の方向性】 今後、教員がALTと連携した授業づくりについて研修する機会を設定したり、ALT同士が研修する機会を設定したりすることで、両者の力量を高め、楽しい授業づくりにつなげていく。	学校教育課																												
14	ALTによる外国語の授業が楽しいと感じる児童・生徒の割合②中学校	89.0 %	89.0 %	88.1 %	%	%	90.0 %	D	<table border="1"> <caption>Item 14 Performance Data</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual (実績)</th><th>Target (目標)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>89.0</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>89.0</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>88.1</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>90.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>90.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>90.0</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual (実績)	Target (目標)	H28	89.0		H29	89.0		H30	88.1		R1		90.0	R2		90.0	R3		90.0
	Year	Actual (実績)	Target (目標)																											
H28	89.0																													
H29	89.0																													
H30	88.1																													
R1		90.0																												
R2		90.0																												
R3		90.0																												
(2-3) 豊かな心を育む教育を進める 1. 子供たちの成長を支える教育環境を構築します	【主な取組内容・成果・要因】 小学校よりも早くALTのいる授業を実施していることから担任とALTとの連携の熟度は高まっているが、生徒もALTのいる授業に慣れ、より充実した授業を求めている。そのことが「楽しい」と感じる生徒の割合が上がらなかった要因と考えられる。 【今後の方向性】 今後、教員がALTと連携した授業づくりについて研修する機会を設定したり、ALT同士が研修する機会を設定したりすることで、両者の力量を高め、楽しい授業づくりにつなげていく。	学校教育課																												
15	学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合(再掲) ①小学校	91.1 %	89.7 %	89.7 %	%	%	92.0 %	D	<table border="1"> <caption>Item 15 Performance Data</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual (実績)</th><th>Target (目標)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>91.1</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>89.7</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>89.7</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>92.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>92.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>92.0</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual (実績)	Target (目標)	H28	91.1		H29	89.7		H30	89.7		R1		92.0	R2		92.0	R3		92.0
	Year	Actual (実績)	Target (目標)																											
H28	91.1																													
H29	89.7																													
H30	89.7																													
R1		92.0																												
R2		92.0																												
R3		92.0																												
(2-3) 豊かな心を育む教育を進める 2. 学校施設を計画的に整備します	【主な取組内容・成果・要因】 学びの楽しさを味わえる「個に焦点を当てた授業」づくりや、個々の発達特性に応じた支援、互いのよさを認め合い高めあう活動が、学校が楽しいと感じる児童の高い割合へつなげていると考えられるが、目標値の達成には至らなかった。 【今後の方向性】 今後は、新学習指導要領の完全実施を踏まえながら、各学校で学びの楽しさを味わえる「個に焦点を当てた授業」づくりに取り組む。また、個々の発達特性に応じた適切な支援、互いのよさを認め合い高めあう活動の設定等にも継続して取り組む。	教育総務課																												
16	学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合(再掲) ②中学校	86.0 %	88.8 %	89.1 %	%	%	88.0 %	A	<table border="1"> <caption>Item 16 Performance Data</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual (実績)</th><th>Target (目標)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>86.0</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>88.8</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>89.1</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>88.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>88.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>88.0</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual (実績)	Target (目標)	H28	86.0		H29	88.8		H30	89.1		R1		88.0	R2		88.0	R3		88.0
	Year	Actual (実績)	Target (目標)																											
H28	86.0																													
H29	88.8																													
H30	89.1																													
R1		88.0																												
R2		88.0																												
R3		88.0																												
(2-3) 豊かな心を育む教育を進める 2. 学校施設を計画的に整備します	【主な取組内容・成果・要因】 学びの楽しさを味わえる「個に焦点を当てた授業」づくりや、個々の発達特性に応じた支援、互いのよさを認め合い高めあう活動が、学校が楽しいと感じる生徒の高い割合へつなげていると考える。 【今後の方向性】 今後は、新学習指導要領の完全実施を踏まえながら、各学校で学びの楽しさを味わえる「個に焦点を当てた授業」づくりに取り組む。また、個々の発達特性に応じた適切な支援、互いのよさを認め合い高めあう活動の設定等にも継続して取り組む。	教育総務課																												

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
	施策の柱 施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																						
17	不登校児童・生徒におけるチャレンジ 教室登録者の割合	28.7 %	13.9 %	33.3 %	%	%	33.3 %	A	<table border="1"> <caption>不登校児童・生徒におけるチャレンジ教室登録者の割合</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績 (%)</th><th>目標 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>28.7</td><td>33.3</td></tr> <tr><td>H29</td><td>13.9</td><td>33.3</td></tr> <tr><td>H30</td><td>33.3</td><td>33.3</td></tr> <tr><td>R1</td><td>33.3</td><td>33.3</td></tr> <tr><td>R2</td><td>33.3</td><td>33.3</td></tr> <tr><td>R3</td><td>33.3</td><td>33.3</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	28.7	33.3	H29	13.9	33.3	H30	33.3	33.3	R1	33.3	33.3	R2	33.3	33.3	R3	33.3	33.3
年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	28.7	33.3																												
H29	13.9	33.3																												
H30	33.3	33.3																												
R1	33.3	33.3																												
R2	33.3	33.3																												
R3	33.3	33.3																												
	(2-3) 豊かな心を育む教育を進める 3. 誰もが平等に教育を受けられる環 境をつくります	【主な取組内容・成果・要因】 不登校児童・生徒に対して、チャレンジ教室を含めた関係機関へつなげる取組を重点的に行ってきた。不登校児童・生徒数は増えているものの、取組の効果としてチャレンジ教室への登録者も増えているため、目標を達成することができた。 【今後の方向性】 今後も、不登校児童・生徒を関係機関につなげることを、市内全校にはたらきかけていく。あわせて、新規に不登校児童・生徒を出さない取組も重要になると考え、市教育委員と学校が協力し、スクールソーシャルワーカー等との連携を強化しながら、不登校や問題行動に細やかに対応していく。						学校教育課																						
18	学校給食における島田市産農産物の使用 割合(重量)	37.26 %	38.19 %	41.79 %	%	%	40.0 %	A	<table border="1"> <caption>学校給食における島田市産農産物の使用割合(重量)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績 (%)</th><th>目標 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>37.26</td><td>40.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>38.19</td><td>40.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>41.79</td><td>40.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td>40.0</td><td>40.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td>40.0</td><td>40.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>40.0</td><td>40.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	37.26	40.0	H29	38.19	40.0	H30	41.79	40.0	R1	40.0	40.0	R2	40.0	40.0	R3	40.0	40.0
年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	37.26	40.0																												
H29	38.19	40.0																												
H30	41.79	40.0																												
R1	40.0	40.0																												
R2	40.0	40.0																												
R3	40.0	40.0																												
	(2-3) 豊かな心を育む教育を進める 4. 安全・安心な学校給食を提供しま す	【主な取組内容・成果・要因】 平成26年度から平成28年度には37%台で推移していたが、地元農産物を積極的に使用し、地産地消の推進を図ったことで目標達成となった。「顔が見える」生産者からの新鮮な野菜を使用することで、食材の安全性が担保され、児童・生徒へ安全安心な学校給食を提供することができた。これについては、地元農家が学校給食への理解を示し、協力を得られた結果として、地元農家の経営支援にもつながった。 【今後の方向性】 島田市の地産地消推進目標を重量ベース、品目ベースでそれぞれ40%としている。重量ベースにおいては40%の目標値を達成しているが、品目ベースにおいては平成30年度は36%であった。学校給食で使用する食材については、一度に大量に使用するため、その供給ができる生産者を確保することが課題である。しかし、農産物の生産は天候に左右されることや生産者の高齢化・後継者不足の問題等により、生産者総数が減じている状況などを考慮すると、今後も少なくとも40%を維持できるよう、島田市産農産物利用割合の水準の維持に向け、献立の検討等により積極的に地元農産物を使用していく。						学校給食課																						
19	生涯学習の成果を発表した人の数(年 間)	1,955 人	1,924 人	1,937 人	人	人	2,030 人	D	<table border="1"> <caption>生涯学習の成果を発表した人の数(年間)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績 (人)</th><th>目標 (人)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>1955</td><td>2030</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1924</td><td>2030</td></tr> <tr><td>H30</td><td>1937</td><td>2030</td></tr> <tr><td>R1</td><td>2030</td><td>2030</td></tr> <tr><td>R2</td><td>2030</td><td>2030</td></tr> <tr><td>R3</td><td>2030</td><td>2030</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績 (人)	目標 (人)	H28	1955	2030	H29	1924	2030	H30	1937	2030	R1	2030	2030	R2	2030	2030	R3	2030	2030
年度	実績 (人)	目標 (人)																												
H28	1955	2030																												
H29	1924	2030																												
H30	1937	2030																												
R1	2030	2030																												
R2	2030	2030																												
R3	2030	2030																												
	(2-4) 地域で学びの力を発揮する人 材を育てる	【主な取組内容・成果・要因】 生涯学習に興味がある市民がより多く参加できるよう公民館等施設との連携を深めたことにより、東海道金谷宿大学の発表者数は増加した。一方で、フェスタしまだのステージ発表者数・グループ数が減少したことから、全体としてH28年度実績の基準値を下回る結果となっている。 【今後の方向性】 新規のグループが少ないため、今まで参加実績のないグループにも積極的に呼びかけを行い、フェスタしまだを生涯学習の成果や活動内容の発表の場として活用してもらえるよう働きかけていく。						社会教育課																						
20	しまだ楽習センター「ふれあい楽習講 座」受講満足度	76.3 %	96.8 %	97.5 %	%	%	81.3 %	A	<table border="1"> <caption>しまだ楽習センター「ふれあい楽習講座」受講満足度</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績 (%)</th><th>目標 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>76.3</td><td>81.3</td></tr> <tr><td>H29</td><td>96.8</td><td>81.3</td></tr> <tr><td>H30</td><td>97.5</td><td>81.3</td></tr> <tr><td>R1</td><td>81.3</td><td>81.3</td></tr> <tr><td>R2</td><td>81.3</td><td>81.3</td></tr> <tr><td>R3</td><td>81.3</td><td>81.3</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	76.3	81.3	H29	96.8	81.3	H30	97.5	81.3	R1	81.3	81.3	R2	81.3	81.3	R3	81.3	81.3
年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	76.3	81.3																												
H29	96.8	81.3																												
H30	97.5	81.3																												
R1	81.3	81.3																												
R2	81.3	81.3																												
R3	81.3	81.3																												
	(2-4) 地域で学びの力を発揮する人 材を育てる 1. 生涯学習の充実を図ります	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度から、より良い市民サービス提供のために指定管理者制度を導入した。指定管理者の工夫により、ふれあい楽習講座の質及びバリエーションが向上し、受講満足度が高くなった。 【今後の方向性】 満足度97.5%という非常に高い実績値を下げることをないように、指定管理者と連携して講座内容の質・バリエーションの豊富さを向上させていく。また、多くの市民にサービス提供できるよう、周知の方法の工夫も検討していく。						社会教育課																						

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
21	市民意識調査「青少年の健全育成」における市民満足度	26.6 %	25.4 %	25.3 %	%	%	28.0 %	A	
	(2-4) 地域で学びの力を発揮する人材を育てる 2. 青少年の健全な育成を支援します	48.6 %	49.3 %	57.8 %	%	%	50.8 %		
22	夜間や休日に開催する家庭教育講座の参加者数(年間)	194 人	283 人	382 人	人	人	300 人	A	
	(2-4) 地域で学びの力を発揮する人材を育てる 3. 家庭教育を推進し子育て学習を支援します								
23	人口1人当たりの図書貸出点数(年間)	5.95 点/人	5.90 点/人	5.91 点/人	点/人	点/人	7.28 点/人	D	
	(2-4) 地域で学びの力を発揮する人材を育てる 4. 図書館機能を充実させ読書活動を支援します								
24	市主催スポーツ大会への参加者数(年間)	2,944 人	2,899 人	2,973 人	人	人	3,300 人	C	
	(2-5) 生涯スポーツを楽しむ人を増やす								

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																						
25	ニュースポーツ教室の延べ参加者数 (年間)	1,215 人	1,010 人	1,178 人	人	人	1,350 人	D	<table border="1"> <caption>ニュースポーツ教室の延べ参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>1215</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1010</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1178</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>1350</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	1215	-	H29	1010	-	H30	1178	-	R1	-	1350	R2	-	-	R3	-	-
	年度	実績	目標																											
H28	1215	-																												
H29	1010	-																												
H30	1178	-																												
R1	-	1350																												
R2	-	-																												
R3	-	-																												
(2-5) 生涯スポーツを楽しむ人を増やす 1. 生涯スポーツを普及します		【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、スポーツ教室に関する情報を発信する「LINE@」を導入し、参加者確保に努めたことで、平成29年度実績に比べ参加人数を増加させることができた。しかし、平成28年度基準値を下回っていることから、引き続き、参加者確保に努めるとともに「運動をしていない市民」「運動をこれから始めようと思っている市民」をターゲットに、新規参加者を獲得していく必要がある。 【今後の方向性】 令和元年以降は、今までスポーツ教室を開催していなかった地区で出張教室などを開催し、より多くの市民に教室へ参加いただけるよう努めていく。また、幅広いニーズに対応したスポーツ教室が開催できるよう、スポーツ推進委員と協議を進めスポーツ人口の拡大を図っていく。						スポーツ振興課																						
26	新たに設立される競技団体数 (H30年度からの累計)	— 団体	— 団体	0 団体	団体	団体	1 団体	C	<table border="1"> <caption>新たに設立される競技団体数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	0	-	H29	0	-	H30	0	-	R1	-	1	R2	-	-	R3	-	-
	年度	実績	目標																											
H28	0	-																												
H29	0	-																												
H30	0	-																												
R1	-	1																												
R2	-	-																												
R3	-	-																												
(2-5) 生涯スポーツを楽しむ人を増やす 2. 競技スポーツの推進を図ります		【主な取組内容・成果・要因】 市で推進している新種目の「ワンバウンドふらばーバレーボール」の大会やニュースポーツ教室をきっかけに、各地域で愛好者によるグループが立ち上がるなどの裾がりをみせているが、新規競技団体設立には至っていない。 【今後の方向性】 今後も継続して大会や教室を開催し、できる限り多くの方に参加していただくことで、愛好者を増やし新規競技団体設立へつなげていきたい。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機に、トップアスリートの競技力を身近に肌で感じられる機会を創出していく。						スポーツ振興課																						
27	施設利用者数 (社会体育施設) (年間)	1,143,600 人	1,219,631 人	1,244,040 人	人	人	1,339,600 人	B	<table border="1"> <caption>施設利用者数 (社会体育施設)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>1143600</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1219631</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1244040</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>1339600</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	1143600	-	H29	1219631	-	H30	1244040	-	R1	-	1339600	R2	-	-	R3	-	-
	年度	実績	目標																											
H28	1143600	-																												
H29	1219631	-																												
H30	1244040	-																												
R1	-	1339600																												
R2	-	-																												
R3	-	-																												
(2-5) 生涯スポーツを楽しむ人を増やす 3. スポーツ活動を行う環境を整備します		【主な取組内容・成果・要因】 利用者数については、気象状況等により年度ごとに変動はあるものの、毎年実施している施設の改修工事・修繕工事によって、安全性の向上及び利便性の向上につながり、利用者数の増加の要因となった。 【今後の方向性】 島田市総合スポーツセンターや横井運動場公園等、各施設の整備を計画的に実施していく。また、田代の郷多目的スポーツ・レクリエーション広場の整備を進め、子どもから高齢者まで、楽しく健康の保持増進ができる環境を整える。						スポーツ振興課																						

政策分野3 地域経済を強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課																							
1	企業立地件数（H23年度からの累計）	12 件	12 件	14 件	件	件	22 件	C	<table border="1"> <caption>企業立地件数（実績・目標）</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>12</td><td>12</td></tr> <tr><td>H29</td><td>12</td><td>12</td></tr> <tr><td>H30</td><td>14</td><td>14</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>14</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>18</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>22</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	12	12	H29	12	12	H30	14	14	R1		14	R2		18	R3		22
	年度	実績	目標																											
H28	12	12																												
H29	12	12																												
H30	14	14																												
R1		14																												
R2		18																												
R3		22																												
(3-1) 雇用の創出や新技術の導入により地域経済を発展させる 【主な取組内容・成果・要因】 現時点では、市内で企業が立地できる用地は限られており、新たな企業進出に結びついていない。今後、新東名島田金谷IC周辺の開発による企業立地が進む見込みである。 【今後の方向性】 ふじのくにフロンティア推進区域の指定を受けている「新東名島田金谷IC周辺地区」において工業用地の造成が進むことから、企業立地を促進していく。								内陸フロンティア推進課																						
2	企業立地に伴う新規雇用者数（H23年度からの累計）	265 人	265 人	283 人	人	人	485 人	C	<table border="1"> <caption>企業立地に伴う新規雇用者数（実績・目標）</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>265</td><td>265</td></tr> <tr><td>H29</td><td>265</td><td>265</td></tr> <tr><td>H30</td><td>283</td><td>283</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>283</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>350</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>485</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	265	265	H29	265	265	H30	283	283	R1		283	R2		350	R3		485
	年度	実績	目標																											
H28	265	265																												
H29	265	265																												
H30	283	283																												
R1		283																												
R2		350																												
R3		485																												
(3-1) 雇用の創出や新技術の導入により地域経済を発展させる 【主な取組内容・成果・要因】 現時点では、市内で企業が立地できる用地は限られており、企業進出や雇用増には結びついていない。今後、新東名島田金谷IC周辺の開発による企業立地により雇用者数も増加すると見込んでいる。 【今後の方向性】 ふじのくにフロンティア推進区域の指定を受けている「新東名島田金谷IC周辺地区」において工業用地の造成が進むことから、企業立地を促進していく。								内陸フロンティア推進課																						
3	産業支援センターの個別相談における満足度	77.6 %	88.0 %	87.7 %	%	%	82.6 %	A	<table border="1"> <caption>産業支援センターの個別相談における満足度（実績・目標）</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>77.6</td><td>77.6</td></tr> <tr><td>H29</td><td>88.0</td><td>88.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>87.7</td><td>87.7</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>88.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>88.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>82.6</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	77.6	77.6	H29	88.0	88.0	H30	87.7	87.7	R1		88.0	R2		88.0	R3		82.6
	年度	実績	目標																											
H28	77.6	77.6																												
H29	88.0	88.0																												
H30	87.7	87.7																												
R1		88.0																												
R2		88.0																												
R3		82.6																												
(3-1) 雇用の創出や新技術の導入により地域経済を発展させる 1. 活躍する人を育て、応援します 【主な取組内容・成果・要因】 基準値となる平成28年度は、産業支援センターを設置した初年度に当たるため、相談体制も確立していなかった。その後、多くの支援機関と積極的に連携する中で、多彩な専門家による相談受付が実現した結果、平成29、30年度と満足度が高水準を示したと判断している。 【今後の方向性】 相談機関の真価は利用者の満足度に収斂していく。従って、今後も利用者の満足度を更に向上させる取組を実施していく。そのためには、ニーズに即した体制の整備が必要となるため、専門家の多様化を図っていく。								商工課																						
4	観光振興活動支援件数（年間）	4 件	4 件	3 件	件	件	6 件	D	<table border="1"> <caption>観光振興活動支援件数（実績・目標）</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>H29</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>H30</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>4</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>4</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	4	4	H29	4	4	H30	3	3	R1		4	R2		4	R3		6
	年度	実績	目標																											
H28	4	4																												
H29	4	4																												
H30	3	3																												
R1		4																												
R2		4																												
R3		6																												
(3-1) 雇用の創出や新技術の導入により地域経済を発展させる 2. 経済活動の輪を広げていきます 【主な取組内容・成果・要因】 毎年活動を行う団体がある一方、単年度の活動のみで次年度以降継続した活動を行わない団体がある。そして、制度の周知が不十分であったため、平成30年度は支援件数が1件減少した。 【今後の方向性】 観光振興活動を計画する団体等に、適切な支援・助言等を行えるよう体制の強化を図るとともに、積極的に情報の発信と収集を行い、観光振興活動を計画実施する団体を発掘・養成する。								観光課																						

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
5	ICTを活用した個別プロジェクト実施件数（H30年度からの累計）	— 件	— 件	1 件	件	件	4 件	C	
	(3-1) 雇用の創出や新技術の導入により地域経済を発展させる 3. ICTの活用で、産業の活性化を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 従事者の高齢化、人手不足が顕著である農業分野において、市内のバラ生産農家と協力し、栽培環境の見える化による省力化、生産性向上を目指す実証実験、研究を実施した。 【今後の方向性】 農業だけでなく様々な産業分野におけるICTの効果的な導入、利活用を促進するため、市内企業・団体等と連携し、ICTの利活用により生産性や効率性を高める実証実験、研究を実施していく。					戦略推進課		
6	設備投資等支援による目標効果達成企業数（年間）	12 件	12 件	4 件	件	件	15 件	D	
	(3-2) 世界に誇れる技術を持った中小企業を育てる	【主な取組内容・成果・要因】 中小企業への支援は、国・県でも多彩な支援制度があり、中小企業にとっては選択肢が広がっている。平成30年度においては、国の制度である「ものづくり補助金」の採択率が高く、めざそう値指標の対象である地域産業振興事業費補助金の申請件数が減少した。 【今後の方向性】 人手不足や経営者の高齢化など、深刻な課題を抱えている中小企業は多く、事業活動の合理化や近代化を支えることを目的とした補助制度は、新たな設備投資により課題を解決しようとする中小企業の選択肢の一つであり、今後も積極的に周知を図り、活用を促していく。					商工課		
7	販路拡大支援による成約件数（年間）	180 件	76 件	214 件	件	件	200 件	A	
	(3-2) 世界に誇れる技術を持った中小企業を育てる 1. 中小企業をサポートし、経営基盤を強化します	【主な取組内容・成果・要因】 販路拡大支援件数（販路拡大開拓事業費補助金申請件数）は減少傾向にあるが、平成30年度は目標値を上回る成約件数となった。 【今後の方向性】 販路拡大は中小企業最大の課題であり、産業支援センターの個別相談内訳でトップの相談項目であるが、補助制度の存在が十分に周知されていないため、一層の周知に努めていく。					商工課		
8	内陸フロンティア推進区域 成長産業企業立地数（H30年度からの累計）	— 件	— 件	1 件	件	件	2 件	B	
	(3-2) 世界に誇れる技術を持った中小企業を育てる 2. 付加価値の高い地域産業を創出します	【主な取組内容・成果・要因】 ふじのくにフロンティア推進区域内に食品安全の国際規格を取得し、抹茶の輸出拡大に力を入れている成長産業企業（抹茶工場）が新たに工場を増設した。 【今後の方向性】 今後企業募集を行う区画に成長産業を誘致できるよう静岡県東京事務所とも連携しながら進めていく。					内陸フロンティア推進課		

政策分野3 地域経済を強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
9	中心市街地（本通二丁目交差点）の歩行者数	2,008 人/日	1,511 人/日	2,135 人/日	人/日	人/日	2,200 人/日	B	
	(3-3) 商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年3月にオープンしたび〜ファイブはまだ音楽広場が、年間を通して稼働できたことが歩行者数の増加に影響したと思われる。 【今後の方向性】 令和元年度には「島田市中心市街地活性化基本計画」を策定予定であり、計画を基に事業を実施することで、中心市街地の歩行者数増へつなげていく。					商工課		
10	空き店舗改善数（H30年度からの累計）	— 件	— 件	0 件	件	件	8 件	C	
	(3-3) 商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す 1. 中心市街地のにぎわいづくりを進めます	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、次年度より開始するリノベーション補助金の制度設計に取り組んだ。実績値は0件であるが、次年度より補助制度が始まるため、活用を促していく。 【今後の方向性】 令和元年度より「遊休不動産リノベーション応援事業補助金」を開始した。制度の周知を行い、活用を促すとともに、「中心市街地活性化基本計画」を策定し、空き店舗対策の施策を実施していくことで、空き店舗数の改善を図っていく。					商工課		
11	買い物弱者対策 買い物事業参加者数（H30年度からの累計）	— 者	— 者	1 者	者	者	1 者	A	
	(3-3) 商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す 2. 地域に密着した商業サービスを展開します	【主な取組内容・成果・要因】 民間事業者による移動販売事業の開始によって、伊久身・神座・相賀・地名・身成地区における買い物困難者の支援が図られた。 【今後の方向性】 現在参加している事業者には引き続き事業を実施いただくとともに、他の手法も含めて買い物弱者対策についての全国的な取組を調査していく。					商工課		
12	商業のにぎわい創出支援件数（年間）	17 件	14 件	9 件	件	件	20 件	D	
	(3-3) 商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す 3. チャレンジする店主を支援します	【主な取組内容・成果・要因】 「にぎわい商店街支援事業補助金」の利用件数が大きく減少している。市の支援制度を使わず自らのイベントを実施する団体もあり、件数は減っている。 【今後の方向性】 これまでの支援は継続しながら、令和元年度に開始する「遊休不動産リノベーション応援事業補助金」により意欲ある店主を支援し、にぎわい創出支援件数の増加につなげていきたい。					商工課		

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
	施策の柱 施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																						
13	担い手への農用地の集積率 (3-4) 地域の特徴を活かした農林業を進める	39.8 %	39.1 %	40.5 %	%	%	50.0 %	C	<table border="1"> <caption>Land Consolidation Rate Data</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual (%)</th><th>Target (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>39.8</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>39.1</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>40.5</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>50.0</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual (%)	Target (%)	H28	39.8		H29	39.1		H30	40.5		R1			R2			R3		50.0
Year	Actual (%)	Target (%)																												
H28	39.8																													
H29	39.1																													
H30	40.5																													
R1																														
R2																														
R3		50.0																												
	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、認定農業者の新規認定件数が少なかったことから集積率は微増に留まった。なお、集積面積は1,311haとなった。 【今後の方向性】 引き続き、認定農業者への農用地の集積、認定農業者の新たな認定に努めていくが、高齢化や後継者不足が進む一方で茶価の低迷も続いており、茶業を主とした農業経営は厳しい状況が続いている。							農林課																						
14	認定農業者数（年度末時点） (3-4) 地域の特徴を活かした農林業を進める 1. 次の世代へつなげる生産体制を築きます	391 人	384 人	384 人	人	人	400 人	D	<table border="1"> <caption>Number of Certified Farmers Data</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual (人)</th><th>Target (人)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>391</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>384</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>384</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>400</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual (人)	Target (人)	H28	391		H29	384		H30	384		R1			R2			R3		400
Year	Actual (人)	Target (人)																												
H28	391																													
H29	384																													
H30	384																													
R1																														
R2																														
R3		400																												
	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、認定農業者の期間満了者が74人おり、そのうち再認定が68人、新規認定が6人あり、全体では増減なしとなった。 【今後の方向性】 農業従事者の高齢化や後継者不足のほか、茶価低迷も伴い、認定農業者数の新規・更新認定数が伸び悩んでいる。今後は持続する農業経営者の育成のための新規就農支援や法人化の支援を、より一層強化する必要がある。							農林課																						
15	茶改植実施面積（H23年度末からの累計） (3-4) 地域の特徴を活かした農林業を進める 2. 農林業生産基盤の整備を推進します	35.62 ha	48.31 ha	51.62 ha	ha	ha	70.0 ha	B	<table border="1"> <caption>Tea Replanting Area Data</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual (ha)</th><th>Target (ha)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>35.62</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>48.31</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>51.62</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>70.0</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual (ha)	Target (ha)	H28	35.62		H29	48.31		H30	51.62		R1			R2			R3		70.0
Year	Actual (ha)	Target (ha)																												
H28	35.62																													
H29	48.31																													
H30	51.62																													
R1																														
R2																														
R3		70.0																												
	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度から国の改植補助に対して、市の付け増し補助を実施することで改植の推進を図ったが、国及び市の補助についての周知が十分でなかったため、平成29年度から微増に留まった。 【今後の方向性】 引き続き、国の改植補助に対する付け増しの補助を実施する。また、改植を実施する見込みのある農業者へ個別に国及び市の補助内容を説明し、改植面積増加を促進する。							農林課																						
16	有機・無農薬栽培茶園面積（年度末時点） (3-4) 地域の特徴を活かした農林業を進める 3. 農林資源の魅力为全国へと発信します	15.84 ha	19.50 ha	28.10 ha	ha	ha	50.0 ha	C	<table border="1"> <caption>Organic/Pesticide-free Tea Plantation Area Data</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual (ha)</th><th>Target (ha)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>15.84</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>19.5</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>28.1</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>50.0</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual (ha)	Target (ha)	H28	15.84		H29	19.5		H30	28.1		R1			R2			R3		50.0
Year	Actual (ha)	Target (ha)																												
H28	15.84																													
H29	19.5																													
H30	28.1																													
R1																														
R2																														
R3		50.0																												
	【主な取組内容・成果・要因】 国内外での有機・無農薬栽培茶の需要の高まりに対応するため、取組を行う生産者の増加に伴い、有機・無農薬栽培茶園面積も拡大した。 【今後の方向性】 今後も有機・無農薬栽培茶の需要は高まることが予想されるため、農地の集約化や「有機JAS取組茶園奨励金」などにより、有機・無農薬栽培茶園面積の増加を図るとともに、茶の輸出時に求められる傾向が高まっているGAP（農業生産工程管理）認証の推進を関係機関と連携し推進する。							農林課																						

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課																							
17	観光交流客数（年間） （3-5）人と地域の魅力を伝える観光 施策を進める	2,372,870 人	2,024,028 人	1,896,746 人	人	人	3,000,000 人	D	<table border="1"> <caption>観光交流客数（年間）実績と目標</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>2,372,870</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>2,024,028</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1,896,746</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>3,000,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	2,372,870	-	H29	2,024,028	-	H30	1,896,746	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	3,000,000
年度	実績	目標																												
H28	2,372,870	-																												
H29	2,024,028	-																												
H30	1,896,746	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	3,000,000																												
<p>【主な取組内容・成果・要因】 交流客数の算出には、市内関係施設（集客施設等）の任意の協力が必要であるが、平成29年度から協力が得られなくなってしまった施設があること から、その数値は反映していない。それに加え、台風などの悪天候の影響で、蓬莱橋が全面利用できなくなったことも観光交流客数が大きく減少 した要因であると思われる。 【今後の方向性】 令和元年策定していく観光戦略プランにおいて、改めて島田市が有する観光資産の価値を見定め、ターゲットに合わせた情報発信を行うなど、有 効な施策を展開することで交流客数の増加を目指していく。併せて、市内関係施設に対し改めて協力を依頼し、正しい数値の計測に努める。</p>		観光課																												
18	市内観光地の認知度（市観光課ホーム ページのアクセス件数）（年間） （3-5）人と地域の魅力を伝える観光 施策を進める 1. 観光情報を効果的に発信し、観光 による地域の活性化を目指す	183,188 件	225,844 件	185,803 件	件	件	200,000 件	C	<table border="1"> <caption>市内観光地の認知度（市観光課ホームページのアクセス件数）（年間）実績と目標</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>183,188</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>225,844</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>185,803</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>200,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	183,188	-	H29	225,844	-	H30	185,803	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	200,000
年度	実績	目標																												
H28	183,188	-																												
H29	225,844	-																												
H30	185,803	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	200,000																												
<p>【主な取組内容・成果・要因】 イベント情報等について迅速な情報発信を行い、観光情報をより広く伝えるために、開設しているフェイスブックなどのSNSとも連携、活用した。 また、島田の文学碑一覧の説明文を加筆、写真を掲載するなど、内容の充実を図ったことで目標値を上回るアクセス件数となった。 【今後の方向性】 効率的かつ効果的に観光情報等を発信するため、ホームページの充実、パブリシティ態勢の強化を継続して取り組んでいく。また、デジタルマー ケティング手法を用い、島田市に興味を持った人にしっかりとその情報が届くよう発信していく。</p>		観光課																												
19	蓬莱橋利用者数（年間） （3-5）人と地域の魅力を伝える観光 施策を進める	158,102 人	129,887 人	114,354 人	人	人	200,000 人	D	<table border="1"> <caption>蓬莱橋利用者数（年間）実績と目標</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>158,102</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>129,887</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>114,354</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>200,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	158,102	-	H29	129,887	-	H30	114,354	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	200,000
年度	実績	目標																												
H28	158,102	-																												
H29	129,887	-																												
H30	114,354	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	200,000																												
<p>【主な取組内容・成果・要因】 かわまちづくり計画に基づく蓬莱橋周辺整備事業として、平成29年度のお休み処兼物産販売所「蓬莱橋897.4茶屋」に引き続き、今年度は高水敷に 駐車場の舗装工事、蓬莱橋897.4茶屋と観光トイレを結ぶ渡り廊下の整備をそれぞれ実施した。「蓬莱橋897.4茶屋」は多くの方にご利用いただき地 域経済活性化に寄与したが、9月末の台風24号の影響で蓬莱橋が損傷し、年度末まで通行規制（橋の途中までなら通行可）したことが大きく影響 し、蓬莱橋利用者数は減少した。 【今後の方向性】 蓬莱橋を拠点とした新たな観光ルートの設定等により、観光客の満足度を向上させ、更なる観光誘客に繋げる中で、市内の観光消費額増加を図 り、費用対効果を高めていく。また、引き続きかわまちづくり計画に基づく蓬莱橋周辺整備事業を進め、来場者の利便性を高めることで更なる集客 を目指していく。</p>		観光課																												

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
1	市民意識調査「地球環境対策や自然環境の保全」における重要度	74.7 % 84.0 %	65.3 % 88.6 %	72.5 % 92.9 %	% %	% %	77.2 % 85.6 %	A	
	(4-1) 地球環境の保全に貢献する	【主な取組内容・成果・要因】 市民意識調査の結果からも、市民の環境に対する意識の高さが伺える。市が実施する住宅用省エネルギー設備の設置に対する補助制度やCOOL CHOICE事業、アースキッズ事業等の環境啓発事業により、市民の環境意識の高揚が図られているものと思われる。 【今後の方向性】 今後も、各種の事業、特に再生可能エネルギーの有効利用や環境教育、環境学習の展開に加え、良好な水環境を保全するための事業を推進していく。							
2	太陽光補助金申請者の太陽電池設置容量（H14年度からの累計）	8.2 MW	9.0 MW	9.6 MW	MW	MW	11.8 MW	C	
	(4-1) 地球環境の保全に貢献する 1. 新エネルギー・再生可能エネルギーを利活用します	【主な取組内容・成果・要因】 太陽エネルギー利用設備補助金事業を継続してきたことで、事業に対する周知が進み、実績も堅調に推移している。 【今後の方向性】 太陽エネルギー利用設備補助金を平成30年度で事業終了とし、令和元年度から省エネルギー設備への補助金へシフトしている。太陽電池設置容量については、蓄電池と同時設置の場合のみ把握が可能であるため、方向性の検討が必要である。							
3	COOL CHOICE賛同者数（H29年度からの累計）	— 人	848 人	1,452 人	人	人	3,000 人	B	
	(4-1) 地球環境の保全に貢献する 2. 低炭素社会・資源循環型社会を形成します	【主な取組内容・成果・要因】 アースキッズ事業等のイベント参加者や田代環境プラザのブース訪問者に賛同を求めたことで、順調にCOOL CHOICE賛同者を増やすことができています。 【今後の方向性】 今後もアースキッズ事業やくらし・消費・環境展などのイベントを利用し、賛同者の増加を図っていく。							
4	市民意識調査「ごみ・リサイクル対策」における重要度	87.3 % 92.0 %	81.6 % 94.4 %	84.6 % 95.4 %	% %	% %	91.5 % 93.8 %	A	
	(4-1) 地球環境の保全に貢献する 3. 資源の有効活用を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 市民意識調査の結果から、ごみ・リサイクル対策における市民意識の高さが伺える。ごみ減量化・資源化として、生ごみの発生抑制・排出抑制や古紙リサイクルの推進等をはじめとした様々な取組により、市民への意識高揚が図られているものと思われる。 【今後の方向性】 今後も、家庭から排出される生ごみの削減のため、生ごみ処理容器「キエーロ」の普及活動を進める。さらに、古紙リサイクルとして雑紙の分別回収の周知徹底、古紙等資源集団回収奨励金制度の普及を推進していく。							

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
	施策の柱 施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																						
5	アースキッズ事業参加者数（H23年度からの累計） （4-1）地球環境の保全に貢献する 4. 環境教育・学習を推進します	2,191 人	2,639 人	3,169 人	人	人	4,640 人	C	<table border="1"> <caption>アースキッズ事業参加者数</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>2191</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>2639</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>3169</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>4640</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	2191		H29	2639		H30	3169		R1			R2			R3		4640
年度	実績	目標																												
H28	2191																													
H29	2639																													
H30	3169																													
R1																														
R2																														
R3		4640																												
6	森林整備面積（年間） （4-2）みどり豊かな自然を守り育む 4. 環境教育・学習を推進します	252.82 ha	226.38 ha	205.23 ha	ha	ha	305.0 ha	D	<table border="1"> <caption>森林整備面積</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>252.82</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>226.38</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>205.23</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>305.0</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	252.82		H29	226.38		H30	205.23		R1			R2			R3		305.0
年度	実績	目標																												
H28	252.82																													
H29	226.38																													
H30	205.23																													
R1																														
R2																														
R3		305.0																												
7	伊太田代地区とその近隣における猛禽類の生息・繁殖活動件数（毎年3月時点） （4-2）みどり豊かな自然を守り育む 1. 森林環境の保全を図ります	2 件	4 件	6 件	件	件	3 件	A	<table border="1"> <caption>猛禽類の生息・繁殖活動件数</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>3</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	2		H29	4		H30	6		R1			R2			R3		3
年度	実績	目標																												
H28	2																													
H29	4																													
H30	6																													
R1																														
R2																														
R3		3																												
8	再生利用が可能な荒廃農地面積（年度末時点） （4-2）みどり豊かな自然を守り育む 2. 農地や森林が持つ公益的機能の維持・回復を図ります	33.5 ha	36.1 ha	36.8 ha	ha	ha	30.0 ha	D	<table border="1"> <caption>再生利用が可能な荒廃農地面積</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>33.5</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>36.1</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>36.8</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td>30.0</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	33.5		H29	36.1		H30	36.8		R1			R2			R3		30.0
年度	実績	目標																												
H28	33.5																													
H29	36.1																													
H30	36.8																													
R1																														
R2																														
R3		30.0																												

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課																							
9	生け垣づくり補助件数（S56年度からの累計）	1,131 件	1,138 件	1,148 件	件	件	1,186 件	C	<table border="1"> <caption>生け垣づくり補助件数</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>1131</td><td>1131</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1138</td><td>1138</td></tr> <tr><td>H30</td><td>1148</td><td>1148</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>1186</td><td>1186</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	1131	1131	H29	1138	1138	H30	1148	1148	R1			R2			R3	1186	1186
	年度	実績	目標																											
H28	1131	1131																												
H29	1138	1138																												
H30	1148	1148																												
R1																														
R2																														
R3	1186	1186																												
(4-2) みどり豊かな自然を守り育む 3. まちの緑化を推進します		【主な取組内容・成果・要因】 広報等のPRを継続した結果、補助件数は年々増加している。平成30年度は前年度から比較して3件増加の計10件であった。 【今後の方向性】 今後も引き続き、広報紙を活用したPRや宅地造成施工者から購入者への説明を依頼するなど周知に努めていく。					建設課																							
10	一人1日最大給水量	477 リットル/ 人・日	470 リットル/ 人・日	482 リットル/ 人・日	リットル/ 人・日	リットル/ 人・日	464 リットル/ 人・日	D	<table border="1"> <caption>一人1日最大給水量</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>477</td><td>477</td></tr> <tr><td>H29</td><td>470</td><td>470</td></tr> <tr><td>H30</td><td>482</td><td>482</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>464</td><td>464</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	477	477	H29	470	470	H30	482	482	R1			R2			R3	464	464
	年度	実績	目標																											
H28	477	477																												
H29	470	470																												
H30	482	482																												
R1																														
R2																														
R3	464	464																												
(4-3) 水資源と水環境を守る		【主な取組内容・成果・要因】 初倉地区において配水管の漏水事故が発生し一時的に給水量が増加した。 【今後の方向性】 老朽管の布設替えや老朽施設の耐震化を、引き続き計画的に更新し「安全安心な水道」、「災害に強い水道」を目指していく。					水道課																							
11	大井川の水環境に対する市民の関心度	66.0 %	65.2 %	37.5 %	%	%	70.0 %	D	<table border="1"> <caption>大井川の水環境に対する市民の関心度</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>66.0</td><td>66.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>65.2</td><td>65.2</td></tr> <tr><td>H30</td><td>37.5</td><td>37.5</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>70.0</td><td>70.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	66.0	66.0	H29	65.2	65.2	H30	37.5	37.5	R1			R2			R3	70.0	70.0
	年度	実績	目標																											
H28	66.0	66.0																												
H29	65.2	65.2																												
H30	37.5	37.5																												
R1																														
R2																														
R3	70.0	70.0																												
(4-3) 水資源と水環境を守る 1. リニア中央新幹線整備工事の対策に取り組みます		【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は島田市民の参加割合の大きい中流域視察の参加者が集まらず開催できなかったため、数値が大きく下がっている。源流部視察は平日に1泊2日で計画しているため、就業者には参加が難しい面があり2回のうち1回は参加者が集まらずに開催できなかった。参加者も高齢者が多く、見直しが必要である。 【今後の方向性】 平成29年度に続き、平成30年度も視察参加者が集まらずに実施できなかった回があるため、大井川の清流を守る研究協議会において、視察を含めた事業の見直しを進めている。今後は視察よりも、小学校への出前講座やワークショップ等の開催に注力していくことも検討していく。					戦略推進課																							
12	汚水処理人口普及率	58.49 %	61.65 %	66.27 %	%	%	60.3 %	A	<table border="1"> <caption>汚水処理人口普及率</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>58.49</td><td>58.49</td></tr> <tr><td>H29</td><td>61.65</td><td>61.65</td></tr> <tr><td>H30</td><td>66.27</td><td>66.27</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>60.3</td><td>60.3</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	58.49	58.49	H29	61.65	61.65	H30	66.27	66.27	R1			R2			R3	60.3	60.3
	年度	実績	目標																											
H28	58.49	58.49																												
H29	61.65	61.65																												
H30	66.27	66.27																												
R1																														
R2																														
R3	60.3	60.3																												
(4-3) 水資源と水環境を守る 2. 水資源を保全します		【主な取組内容・成果・要因】 平成28年度に単独処理浄化槽から合併処理浄化槽へ転換する際の補助金額を増額してから件数が増え、普及率が上昇した。 【今後の方向性】 引き続き単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を推進していくとともに、汲取り式からの転換も推進するよう補助金額の検討をしていく。					下水道課																							

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
13	市内河川調査における環境基準達成率	100 %	100 %	100 %	%	%	100 %	A	
	(4-3) 水資源と水環境を守る 3. 水環境を守ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 定点観測点においては、平成30年度もすべての測点で環境基準を達成することができ、良好な結果であった。 【今後の方向性】 突発的な事故による油の流出や、局所的・一時的に悪化が見られた箇所でも分析調査に努めるようにし、原因などを調べる。また、出前講座などにより水の大切さを市民に伝える啓発活動を引き続き実施していく。</p>						環境課	
14	住みごこちがよいと感じる市民の割合	84.1 % 85.2 %	85.1 % 86.8 %	85.0 % 86.4 %	%	%	85.0 % 85.9 %	A	
	(4-4) 住みよい生活環境をつくる 1. 快適な居住環境の確保、安定した市営住宅の供給に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 交通安全や防犯に関連する団体との連携を図り、各種運動の推進、防犯対策など啓発活動の強化に努めた結果、前年度と比較して交通事故数や犯罪件数が減少し、住みごこちのよさにつながっている。 【今後の方向性】 交通事故数や犯罪件数の減など目に見える数値のほか、地域が主体となって行う見守り活動の充実が地域住民の安心につながっている。市民、地域、関係機関が一体となった安全・安心なまちづくりを推進し、住みよい生活環境づくりに取り組んでいく。</p>						生活安心課	
15	耐用年数が経過した住宅の解体すべき戸数(市営住宅)(年度末時点)	110 戸	108 戸	101 戸	戸	戸	81 戸	C	
	(4-4) 住みよい生活環境をつくる 1. 快適な居住環境の確保、安定した市営住宅の供給に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 島田市営住宅等長寿命化計画に基づき、耐用年数が経過した市営住宅の解体を進めてきた。その中で、平成29年度には大和田第一住宅を2戸解体し、平成30年度には大和田第二住宅6戸と元島田1戸の解体を行った。目標達成に向けこれからも着実に耐用年数が経過した市営住宅の解体を進めていく。 【今後の方向性】 平成29年度から、大和田住宅の用途廃止に向け入居者の移転協議を行っており、入居者が不在となった棟から順次解体を進めていく。その他、老朽化が顕著な木造住宅についても、計画的に解体を進めていく方針である。</p>						建築住宅課	
16	犯罪発生件数(刑法犯認知件数)(年間)	441 件	456 件	347 件	件	件	400 件	A	
	(4-4) 住みよい生活環境をつくる 2. 防犯活動を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 警察署、防犯協会、地域防犯団体と連携した啓発活動や情報提供により、刑法犯認知件数は年々減少している。 【今後の方向性】 警察署、防犯協会、地域防犯団体と連携し、防犯まちづくり講座、防犯パトロール、島田市明るく安心して暮らせる市民大会の開催など啓発活動を実施していく。また、地域で自主的に防犯パトロールなど防犯活動を行う地域防犯団体の支援として、島田市地域見守り活動補助金を交付する。</p>						生活安心課	

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
17	地域公共交通 利用者数(年間)	256,865人	240,036人	251,472人	人	人	250,000人	A	
	(4-4) 住みよい生活環境をつくる 3. 公共交通の維持・確保に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度においては、利用者の声を聞く中で一部経路を変更することでバス利用者が多い地区への補完を行い、利用者増につなげることができた。平成28年度に大幅な見直しを実施したバス路線について、市民に浸透してきた結果が出ていると思われる。</p> <p>【今後の方向性】 今後もバスロケーションシステムの有効活用等により、利用しやすいコミバスを目指していく。また、バス利用者は減少傾向にあるが、運転免許証自主返納の気運も高まっていることから、バス利用の啓発とともにダイヤや経路等の調整を行い、利用者を増やしていきたい。</p>						生活安心課	
18	地域公共交通 人口カバー率	64.5%	64.5%	64.4%	%	%	90.0%	D	
	(4-4) 住みよい生活環境をつくる 3. 公共交通の維持・確保に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 経費が年々増加していく中、持続可能な公共交通を維持するため、利用状況に応じたダイヤ・経路の変更を行っている。平成30年度においては、川根地区でのバス路線においてダイヤ、経路の変更を行ったが、軽微な変更であったため路線のエリアの人口カバー率には影響はなかった。</p> <p>【今後の方向性】 コミバスの運行総量を現在より増やすことが難しい中、少ない本数であっても利用価値の高い路線を構築するため、エリア内での路線本数やダイヤ・経路の見直しを進めるほか、地域における地元主体の自主運行輸送にシフトしていくための支援を進めていくことで、人口カバー率は上がっていくと見込まれる。</p>						生活安心課	
19	地域公共交通 エリアカバー率	69.9%	69.9%	70.4%	%	%	80.0%	C	
	(4-4) 住みよい生活環境をつくる 3. 公共交通の維持・確保に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 エリア内の運行本数に着目し、川根温泉線の路線を利用者の声をもとに経路を一部変更したほか、一部区間を民間路線と同経路にするなどの変更でバス利用者が多く見込まれる地区への補完を実施した。その結果、利用者が増加するなど見直し効果があったため、ダイヤや経路等の調整を行うことで、乗り継ぎ等利用しやすいバス路線を目指していく。</p> <p>【今後の方向性】 コミバスの運行総量を現在より増やすことが難しい中、少ない本数であっても利用価値の高い路線を構築するため、エリア内での路線本数やダイヤ・経路の見直しを進めるほか、地域における地元主体の自主運行輸送にシフトしていくための支援を進めていくことで、エリアカバー率は上がっていくと見込まれる。</p>						生活安心課	
20	交通事故(人身事故)発生件数(年間)	718件	672件	646件	件	件	700件	A	
	(4-4) 住みよい生活環境をつくる 4. 交通安全対策を推進し、安全な地域づくりを進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 各種交通安全事業を通じて、市民の交通安全意識の向上を図っていることから、交通事故の発生件数は減少している。</p> <p>【今後の方向性】 今後も引き続き、他団体協力のもと、街頭広報や交通安全講座を通じて市民の交通安全意識の向上を図っていく。また、第10次島田市交通安全計画に基づいた取組を推進していく。</p>						生活安心課	

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課																							
21	電話勧誘に起因する消費生活相談件数 (年間)	133 件	103 件	50 件	件	件	100 件	A	<table border="1"> <caption>電話勧誘に起因する消費生活相談件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>133</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>103</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>50</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	133	-	H29	103	-	H30	50	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	100
	年度	実績	目標																											
H28	133	-																												
H29	103	-																												
H30	50	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	100																												
(4-4) 住みよい生活環境をつくる 5. 消費生活対策を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 平成28年度からの迷惑電話防止装置設置事業により、消費生活相談件数は減少した。</p> <p>【今後の方向性】 令和元年度から、迷惑電話防止装置の購入者に対する補助金制度に事業内容を変更することで迷惑電話防止装置利用の継続率を高め、電話勧誘に起因する消費生活相談の件数を更に減少させていく。</p>	生活安心課																												
22	女性の社会進出を後押しする動きが広がることについての市民意識	81.2 % 88.5 %	81.6 % 94.4 %	82.2 % 90.8 %	% %	% %	85.0 % 90.7 %	A	<table border="1"> <caption>女性の社会進出を後押しする動きが広がることについての市民意識</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>88.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>94.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>90.8</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>90.7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	88.5	-	H29	94.4	-	H30	90.8	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	90.7
	年度	実績	目標																											
H28	88.5	-																												
H29	94.4	-																												
H30	90.8	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	90.7																												
(4-4) 住みよい生活環境をつくる 6. 男女共同参画社会の実現を目指します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 目標値をクリアしていることから、女性の社会進出についての理解が社会へ浸透してきていると考える。今後女性登用等への理解がより進んでいくよう、引き続き男女共同参画や女性活躍に関する啓発を行っていく必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業の考え方にとらわれず、男女がともに個性や能力を発揮できる社会づくりを進めていく。そのため、ワーク・ライフ・バランスの推進などの女性活躍推進について重点施策として盛り込んだ「第3次島田市男女共同参画行動計画」に基づき全庁的に施策の推進を図っていく。</p>	市民協働課																												
23	人権啓発事業への参加者数 (年間)	461 人	491 人	480 人	人	人	500 人	B	<table border="1"> <caption>人権啓発事業への参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>461</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>491</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>480</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	461	-	H29	491	-	H30	480	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	500
	年度	実績	目標																											
H28	461	-																												
H29	491	-																												
H30	480	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	500																												
(4-4) 住みよい生活環境をつくる 7. 人権が尊重される社会の実現を目指します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 幼稚園1園、保育園1園、小学校3校、中学校1校及び福祉施設1園において、人権擁護委員による啓発活動を実施し、人権が尊重される社会の大切さを学んでもらった。</p> <p>【今後の方向性】 今後も引き続き、子どもたちへの啓発を続けていくとともに、福祉施設や高齢者施設における啓発にも力を入れていく。</p>	生活安心課																												

政策分野5 歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
1	市民意識調査「歴史・文化資源が豊かである」と感じる市民の割合	31.8 %	27.0 %	27.3 %	%	%	41.8 %	D	
	(5-1) 培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める	34.3 %	29.3 %	29.1 %	%	%	42.2 %		
		【主な取組内容・成果・要因】 「大井川川越遺跡」「諏訪原城跡」の整備や指定文化財の保存修理事業に加え、平成27年度より「しまだ市民遺産」の認定事業を開始し、島田市民が守り続けてきたまちの宝を「しまだ市民遺産」として認定することで地域愛の醸成を図っている。当初17件だった市民遺産も平成30年度には21件とすることができた。 【今後の方向性】 今後も「大井川川越遺跡」「諏訪原城跡」の整備や、指定文化財の保存修理事業を計画的に行っていく。また、「しまだ市民遺産」については、3年ごとの認定により地域で守り続けている遺産を掘り起こし、市民が地域の歴史や文化に理解と愛着を持ってもらえるように努める。					博物館課		
2	市民意識調査「歴史を生かしたまちづくり」における市民満足度	39.7 %	36.4 %	35.6 %	%	%	41.7 %	A	
	(5-1) 培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める	56.0 %	57.5 %	60.1 %	%	%	57.2 %		
1. 歴史資源を守り、活用を進めます		【主な取組内容・成果・要因】 主要な取組のひとつ「大井川川越遺跡」については、保存管理計画に基づき順次整備を行っているが発掘調査中の土地もあること、また、建物が整備されていないこともあり、現段階では来訪者に整備状況が分かりにくい状況となっている。また、同じく主要な取組のひとつ「諏訪原城跡」については、平成30年度末に諏訪原城跡の歴史をわかりやすく説明するビジターセンターをオープンさせ、来訪者が増加している。 【今後の方向性】 今後も計画に沿って「大井川川越遺跡」「諏訪原城跡」の整備を進めていく。その他文化財についても保存管理に努めていく。					博物館課		
3	島田市博物館入場者数（分館含む） （年間）	57,395 人	41,745 人	42,292 人	人	人	50,000 人	D	
	(5-1) 培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める	【主な取組内容・成果・要因】 入場者数は、企画展の内容に左右されるところが大きく、平成28年度の刀剣展においては、刀剣ブームと三名槍集結で入場者は増加したが、平成29年度、平成30年度の刀剣展では、平成28年度の集客を超えることはできなかった。 【今後の方向性】 企画展の充実とともに、企画展、無料開放日に合わせた博物館及び川越街道の賑わい創出イベントを実施し、市民及び県内外からの来館者の増加を図る。また、文化資源活用課と連携し観光客誘客事業を実施する。					博物館課		
2. 歴史に触れる機会を創出します									
4	市民文化祭出展者、出演者、観客数計 （年間）	9,100 人	8,787 人	9,048 人	人	人	10,000 人	D	
	(5-1) 培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める	【主な取組内容・成果・要因】 近年の傾向として、展示部門、音楽芸能部門ともに出展者、出演者の数が減少傾向にあり、一部の展示部門では作品を鑑賞するだけでなく、制作体験やワークショップを併催するなど、新たな来場者を得るための試みや、文化芸術活動の裾野を広げる取組を実施しており、減少傾向に歯止めをかけている。 【今後の方向性】 今後、部門ごとの体験コーナーやワークショップなどの設置を更に進めていくとともに、幅広い文化芸術分野の発表の場として出展または出演を促す方策を検討していく必要がある。また、生涯学習活動の発表の場や地域で行われている文化祭などの連携も視野に、開催方法を協議していく。					社会教育課		
3. 文化・芸術に親しむ機会を充実します									

政策分野5 歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
	施策の柱 施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課
5	市民意識調査「文化活動への支援」における市民満足度	32.1 %	25.6 %	28.3 %	%	%	42.1 %	B	
	(5-1) 培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める 4. 文化活動を支援し、文化芸術水準の向上を目指します	53.8 %	51.9 %	60.5 %	%	%	62.3 %		
6	都市の魅力度（地域ブランド調査）	545 位	660 位	405 位	位	位	400 位	B	
	(5-2) 島田を知り、好きになっ てもらう 【主な取組内容・成果・要因】 ブランドメッセージ「島田市緑茶化計画」を旗印とし、ホームページ、緑茶化計画専用Webサイト、SNSなどにより、情報発信を多角的に実施した。また、企業や市民・団体との協働事業による商品開発、動画の製作、体験プログラムの開発などがユニークな取組としてメディアに取り上げられることで、市民が愛着と誇りを持ち、効果的な連携が図られている魅力的な都市として評価に繋がった。 【今後の方向性】 シティプロモーションは単年度で完成するものではなく、継続的に様々な事業に関連づけを行い実施していく必要がある。オリンピック開催や賑わい交流拠点施設のオープンを新たなチャンスと捉え、「島田ブランド」の国内外への発信に努める。また、デジタルマーケティング室との連携により、魅力あるコンテンツを効果的に発信する方策を研究する。								
7	島田市公式SNS（Facebook、Twitter等）のフォロワー数（毎年5月時点）	5,176 件	6,174 件	7,114 件	件	件	5,700 件	A	
	(5-2) 島田を知り、好きになっ てもらう 1. 効果的に情報を発信し、島田に行ってみたくなるイメージを高めていきます								
8	島田市公式ホームページの総ページビュー数（年間）	2,884,538 件	2,980,567 件	3,133,292 件	件	件	3,000,000 件	A	
	(5-2) 島田を知り、好きになっ てもらう 1. 効果的に情報を発信し、島田に行ってみたくなるイメージを高めていきます								

政策分野5 歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
9	島田市の認知度（地域ブランド調査）	578 位	621 位	562 位	位	位	400 位	C	
	(5-2) 島田を知り、好きになっても らう 2. 島田市緑茶化計画をはじめとした シティプロモーションの推進により、 島田のブランド力を高めます	【主な取組内容・成果・要因】 ブランドメッセージ「島田市緑茶化計画」を旗印とし、ホームページ、緑茶化計画専用Webサイト、SNSなどにより、情報発信を多角的に実施し た。また、企業や市民・団体との協働事業による商品開発、動画の製作、体験プログラムの開発などユニークな取組としてメディアに取り上げられ る機会が増加し、認知度のアップにつながった。 【今後の方向性】 シティプロモーションは単年度で完成するものではなく、継続的に様々な事業に関連づけを行い実施していく必要がある。オリンピック開催や賑 わい交流拠点施設のオープンを新たなチャンスと捉え、「島田ブランド」を国内外へ発信し、更なる認知度アップに努める。						広報情報課	
10	県外からの移住件数 (H27年度からの累計)	34 件	50 件	64 件	件	件	140 件	C	
	(5-3) 人との連携・交流が生まれる 地域をつくる	【主な取組内容・成果・要因】 支援制度を利用した移住者数は、県内では比較的多い(H27年：9番、H28年：2番、H29年：5番、H30年：8番)が、4年間の平均は年16件で 目標の8割に留まっている。従来の取組を続けたのでは目標達成が難しく、更なる工夫と新たな取組が必要である。 【今後の方向性】 人口動態の社会増減では、30代と10歳未満の転入超過が続いている。子供の就園、就学を控える30代の子育て世帯をターゲットに、「子育てしや すいまち」を前面に出して情報発信する。また、市内の親世代にも情報発信し、Uターン移住を促進していく。						市民協働課	
11	移住相談件数（年間）	104 件	112 件	84 件	件	件	156 件	D	
	(5-3) 人との連携・交流が生まれる 地域をつくる 1. 移住支援を促進します	【主な取組内容・成果・要因】 移住相談件数は平成29年度から25%減少しており、目標値の54%に留まっている。都内での移住相談会へのブース出展や移住ポータルサイト、地 域おこし協力隊のSNSなどを通じて、島田市での暮らしぶりを情報発信しているが、相談件数の増加に結びついていない。 【今後の方向性】 デジタルマーケティングの手法を活用して、移住者が欲している情報の把握を進めるとともに、移住を検討している者に島田市の情報を配信でき る方法の研究を進める。また、移住ポータルサイトの更新頻度を上げ、積極的な情報発信に努める。						市民協働課	
12	市民意識調査「国際交流や都市間交流 の推進」における市民満足度	27.2 % 49.3 %	26.9 % 63.1 %	25.6 % 63.5 %	% %	% %	30.0 % 52.4 %	A	
	(5-3) 人との連携・交流が生まれる 地域をつくる 2. 国内・国際交流を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 国際交流については、島田市国際交流協会が主体となり市民交流を行っているが、会員数が停滞していることから、協会活動の市民への周知が 十分ではないと思われる。また、都市間交流は、市民の日常生活に直接影響がないことから、市民満足度への反映が難しい。 【今後の方向性】 市民の関心を高めるため、協会を市から独立させ、民間団体としての自主性・独自性を持たせることで、より魅力ある事業を展開していく。ま た、様々な情報ツールによる情報発信等、広報活動の強化により、市民への周知度向上を図る。						文化資源活 用課	

政策分野5 歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
	施策の柱 施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																						
13	<p>先進的自治会活性化事業新規実施自治会数 (H29年度からの累計)</p> <p>(5-3) 人との連携・交流が生まれる地域をつくる</p> <p>3. 幅広い世代が交流し、このまちへの愛着が湧く意識を醸成します</p>	— 自治会	1 自治会	2 自治会	自治会	自治会	5 自治会	B	<table border="1"> <caption>実績と目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (実績)</th> <th>目標 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (実績)	目標 (目標)	H28	0	0	H29	1	1	H30	2	2	R1	5	5	R2	5	5	R3	5	5
年度	実績 (実績)	目標 (目標)																												
H28	0	0																												
H29	1	1																												
H30	2	2																												
R1	5	5																												
R2	5	5																												
R3	5	5																												
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 先進的自治会活性化事業の実施は難しいが、少しずつ取り組む自治会が出てきている。 【今後の方向性】 自治会にかかる負担が増大していく中で、どの事業が必要で、どの事業が必要ないのか、自治会の中で検討していく必要がある。また、自治会の現状に応じ、先進的自治会活性化事業を行う団体を積極的に支援していく。</p>					市民協働課																							

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
1	市民意識調査「安心して暮らせる居住環境の整備」における市民満足度	36.1 %	38.7 %	36.4 %	%	%	40.0 %	B	
	(6-1) 安全で快適な生活基盤を整える	47.9 %	52.3 %	50.1 %	%	%	51.7 %		
		【主な取組内容・成果・要因】 道路や橋りょう・河川、公園、上下水道などインフラの整備を進めたことや超高速ブロードバンドの整備の進展により、市民満足度が上昇したと思われる。 【今後の方向性】 引き続き、道路や橋りょう・河川、公園、上下水道などインフラの整備・更新を計画的に進め、安全で快適な生活基盤を整えていく。							
2	市道の整備率	38.4 %	38.7 %	38.8 %	%	%	40.1 %	C	
	(6-1) 安全で快適な生活基盤を整える								
		【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、横岡新田牛尾線、本通り御飯屋線などの整備を進めた。今後も地元要望等を踏まえ、計画的に整備を進めていく。 【今後の方向性】 国庫補助の内示率が低い状況が続いている中、優先順位を明確にし、効率的な整備を図っていく。							
3	長寿命化修繕計画における橋りょうの工事実施率	32.0 %	39.0 %	41.0 %	%	%	84.0 %	C	
	(6-1) 安全で快適な生活基盤を整える								
		【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、森の谷橋など3橋の修繕が完了した。 【今後の方向性】 今後も橋梁点検結果に基づき優先順位の高いものから計画的に長寿命化工事を実施し、市民の安全・安心とコスト平準化の両立を図っていく。							
4	公園愛護会団体数 (年度末時点)	46 団体	47 団体	48 団体	団体	団体	49 団体	B	
	(6-1) 安全で快適な生活基盤を整える								
		【主な取組内容・成果・要因】 活動内容を説明するなど公園愛護会結成に向けた働きかけを行い、新たに、牧之原公園愛護会が結成された。 【今後の方向性】 公園愛護会の急激な増加は困難であるが、引き続き、公園愛護会設置に向けて活動をしていく。また、個々の公園愛護会の活動案内を作成し、各役員に配付することで、できる限り社会奉仕活動のしやすい環境を整えていく。							

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標 施策の柱 施策と内容	基準値 (計画策定時)	参考	実績			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
5	市民意識調査「上下水道の整備」における市民満足度	40.3 % 49.8 %	41.0 % 55.7 %	46.5 % 60.5 %	% %	% %	41.0 % 50.6 %	A	
	(6-1) 安全で快適な生活基盤を整える 4. 上下水道等関連施設の効率的な整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 老朽管の布設替えや老朽施設の耐震化を計画的に進めたことで、市民満足度は上昇した。</p> <p>【今後の方向性】 引き続き、老朽管の布設替えや老朽施設の耐震化を計画的に進めることで、「安全安心な水道」、「災害に強い水道」、「健全経営し続ける水道」を目指す。また、工事の実施について市民の理解を得ることが重要であるため、工事情報をホームページなどで適切に周知していく。</p>							
6	超高速ブロードバンド 世帯カバー率	92.01 %	99.40 %	100 %	%	%	100 %	A	
	(6-1) 安全で快適な生活基盤を整える 5. 誰もが快適に利用できる地域情報通信基盤の整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 市から事業者へ積極的に呼びかけを行ったことや、補助率を1/2から2/3へ引き上げたことにより、早急に整備を行うことができたため、完了予定年度よりも4年早く目標を達成することができた。</p> <p>【今後の方向性】 電子申請等による手続きのオンライン化やインターネットを活用した市民サービスの提供を検討し、市民の利便性向上を図っていく。</p>							
7	市民意識調査「主要な道路の整備」における市民満足度	54.7 % 59.4 %	48.7 % 55.4 %	43.2 % 52.0 %	% %	% %	59.7 % 64.8 %	D	
	(6-2) 地域と地域の活発な交流を支える道をつくる	<p>【主な取組内容・成果・要因】 幹線道路については、色尾大柳線、谷口中河線、横岡新田牛尾線の3路線を現在整備中である。また、本通り御飯屋線、横井御飯屋線、蓬莱橋線(南工区)、島竹下線についても整備を進めている。通勤、通学、買い物など市民生活に密着する生活道路(市道)については、地域内の通行の利便性を高めるとともに市民が安全・安心に利用できるよう整備を進めている。</p> <p>【今後の方向性】 幹線道路は、初倉地区・金谷地区における道路ネットワークの強化を目的として、色尾大柳線、谷口中河線、横岡新田牛尾線の3路線について引き続き整備を進めていく。また本通り御飯屋線、横井御飯屋線、蓬莱橋線(南工区)、島竹下線も同様に進めていく。生活道路(市道)の整備については、市民からの要望も多いため、内容を精査し費用対効果を勘案して、早期に事業効果が現れるよう計画的に事業を実施し、満足度向上へつなげていく。</p>							
8	都市計画道路の整備概成率	87.4 %	88.2 %	88.7 %	%	%	90.9 %	C	
	(6-2) 地域と地域の活発な交流を支える道をつくる 1. 幹線道路の整備を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 都市計画道路谷口中河線、東町御請線の道路整備事業を進め、計画どおり進捗している。</p> <p>【今後の方向性】 引き続き目標値の達成に向けて、計画どおり事業進捗を図っていく。</p>							

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
9	「国道1号線島田金谷バイパス4車線化事業」及び「国道473号線金谷相良道路Ⅱ工区整備事業」の整備率	29.2%	38.8%	45.7%	%	%	80.0%	C	
	(6-2) 地域と地域の活発な交流を支える道をつくる 2. 広域幹線道路の整備促進を行います	【主な取組内容・成果・要因】 整備は進捗しているが目標値80%の達成のためには、国道473号供用、国道1号菊川IC/JC完成、牧之原トンネル以東の供用が必要であり、現在の進捗状況や国・県の予算配分を勘案すると目標達成は難しいと思われる。 【今後の方向性】 引き続き、国や県へ事業推進を働きかけていく。					建設課		
10	市民意識調査「計画的な土地利用の推進」における市民満足度	13.9% 21.0%	18.0% 28.7%	14.9% 27.7%	% %	% %	14.9% 22.4%	A	
	(6-3) 便利で魅力あるまちの拠点をつくる	【主な取組内容・成果・要因】 新東名島田金谷インターチェンジ周辺の土地利用が具体化していることに対する評価がある一方で、用途地域指定などによる土地利用の適正化に対する考え方の周知が不足していることが、満足度の低下につながっていると考える。 【今後の方向性】 土地利用が具体化していることや、土地利用に関する考え方などの情報発信により土地利用計画の理解を促進し、市民満足度の一層の向上を目指していく。					都市政策課		
11	市民意識調査「計画的な土地利用の推進」における市民満足度（再掲）	13.9% 21.0%	18.0% 28.7%	14.9% 27.7%	% %	% %	14.9% 22.4%	A	
	(6-3) 便利で魅力あるまちの拠点をつくる 1. 都市計画マスタープランを見直し集約型都市の実現を目指します	【主な取組内容・成果・要因】 新東名島田金谷インターチェンジ周辺の土地利用が具体化していることに対する評価がある一方で、用途地域指定などによる土地利用の適正化に対する考え方の周知が不足していることが、満足度の低下につながっていると考える。 【今後の方向性】 土地利用が具体化していることや、土地利用に関する考え方などの情報発信により土地利用計画の理解を促進し、市民満足度の一層の向上を目指していく。					都市政策課		
12	市民意識調査「心地よい景観の形成」における市民満足度	44.8% 60.3%	40.1% 59.6%	33.3% 56.2%	% %	% %	49.7% 65.8%	D	
	(6-3) 便利で魅力あるまちの拠点をつくる 2. 地域景観の向上を図ります	【主な取組内容・成果・要因】 平成29年度は新東名島田金谷インターチェンジ周辺を景観重点地区に指定し、平成30年度は太陽光発電設備の届出基準を設けるなど、良好な景観形成に向けた取組を着実に進めているが、取組の周知及び景観形成全般の啓発が不足しているため、満足度が下がっていると考える。 【今後の方向性】 島田市景観計画に基づく良好な景観形成に向けて、関係課や地元との調整を図りながら、新たな重点地区への指定に取り組んでいく。また、景観形成に向けた啓発を積極的に行い、満足度の向上につなげる。					都市政策課		

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課	
13	内陸フロンティア推進区域①企業立地面積 (H30年度からの累計)	— ha	— ha	0.3 ha	ha	ha	8 ha	C	
	(6-3) 便利で魅力あるまちの拠点をつくる 3. 新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺地区(内陸フロンティア推進区域)の開発整備を進めます	【主な取組内容・成果・要因】 内陸フロンティア推進区域整備事業の進展により、区域内企業が敷地拡張・工場増設を行った。 【今後の方向性】 平成30年度から島田市土地開発公社による工業用地の販売を順次開始した。今後は堤間地区、牛尾山地区への企業誘致を行い、企業立地面積・件数を拡大していく。						内陸フロンティア推進課	
14	内陸フロンティア推進区域②企業立地件数 (H30年度からの累計)	— 件	— 件	1 件	件	件	4 件	C	
	(6-3) 便利で魅力あるまちの拠点をつくる 3. 新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺地区(内陸フロンティア推進区域)の開発整備を進めます	【主な取組内容・成果・要因】 内陸フロンティア推進区域整備事業の進展により、区域内企業が敷地拡張・工場増設を行った。 【今後の方向性】 平成30年度から島田市土地開発公社による工業用地の販売を順次開始した。今後は堤間地区、牛尾山地区への企業誘致を行い、企業立地面積・件数を拡大していく。						内陸フロンティア推進課	
15	市民意識調査「富士山静岡空港を活用したまちづくり」における市民満足度	22.7 % 30.8 %	23.4 % 35.5 %	31.5 % 44.4 %	% %	% %	35.0 % 46.7 %	B	
	(6-3) 便利で魅力あるまちの拠点をつくる 4. 富士山静岡空港周辺プロジェクトを進めます	【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は大幅に達成率が向上している。これは空港周辺プロジェクトとして進めてきている静岡空港隣接地域賑わい空間創生事業を予定より前倒して進めていることや、旧金谷中学校跡地活用事業が具体的に動き始めたこと、また空港周辺地域における関連する事業者と行政が情報の共有を図る情報共有会議が設置されるなど、空港周辺の置かれている状況に変化があり、賑わい創出に向けた期待感が増したことで市民の満足度が向上したものと考えられる。 【今後の方向性】 引き続き静岡空港隣接地域賑わい空間創生事業による基盤整備を進めるとともに、静岡県や周辺自治体及び空港周辺地域で事業展開している民間事業者と連携することで、空港周辺の賑わい創出と交流人口拡大を図ることを目指す。						戦略推進課	
16	川根温泉及び川根温泉ホテルの利用者数(年間)	399,962 人	393,264 人	374,292 人	人	人	412,000 人	D	
	(6-3) 便利で魅力あるまちの拠点をつくる 5. 新たな交流拠点の形成を図ります	【主な取組内容・成果・要因】 川根温泉の入館者が減少する一方で、川根温泉ホテルの日帰り入浴者が増加してきたが、夏の猛暑や台風による自然現象の影響が大きく、前年度より利用者は減少した。 【今後の方向性】 川根地域の各種団体と連携し、川根温泉が核となって地域の魅力を高め、体験プランや周遊メニューを販売して新たな客層を取り込んでいく。また、川根温泉ホテルの指定管理者である大井川鉄道においては、斬新な宿泊プランと食事の提供によりホテルの経営を安定・向上させていく。						観光課	

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ															
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																	
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																
17	市民意識調査「公共交通機関の充実」 における六合地区満足度	37.0 %	25.5 %	30.1 %	%	%	37.7 %	D	<table border="1"> <caption>市民意識調査「公共交通機関の充実」における六合地区満足度</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>40.0</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>31.5</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>36.0</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>40.7</td> <td>40.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	40.0	40.0	H29	31.5	40.0	H30	36.0	40.0	R3	40.7	40.0
	年度	実績 (%)	目標 (%)																					
H28	40.0	40.0																						
H29	31.5	40.0																						
H30	36.0	40.0																						
R3	40.7	40.0																						
(6-3) 便利で魅力あるまちの拠点を つくる 6. 六合駅駅前広場の整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 平成29年度及び平成30年度に六合駅駅前広場における一般車両の乗降場・待機場の拡充及びシェルターの整備に向けた住民説明会を開催し、住民の理解を得たことから「公共交通機関の充実」における満足度が向上したものと考えている。</p> <p>【今後の方向性】 令和元年度に六合駅駅前広場に係る都市計画の変更を行い、令和2年度から一般車両待機場所の増設、雨よけシェルターの設置などの整備工事を開始する。事業の実施により一層の満足度の向上につなげていく。</p>	都市政策課																						

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
1	市民意識調査「住民の市政への参加の推進」における重要度	69.6 %	60.3 %	56.5 %	%	%	72.0 %	D	
	(7-1) みんなの協力でまちをつくる	<p>【主な取組内容・成果・要因】 実績値が基準値を下回っていることから、住民の市政への参加意識が高まっているとは言い難い状況であることがうかがえる。引き続き協働のまちづくり、地域主体のまちづくり、平和に向けたまちづくりを推進するための施策の充実を図る必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 市民活動センター事業の充実、自治会・町内会と連携した地域課題への対応など、従来から引き続き行っている市民協働の施策についてさらに推進していくとともに、少子高齢化・人口減少などによる地域社会の変化に伴う諸問題にも対応していくための新たな市民協働の施策についても研究し、取り組んでいく。</p>							
2	市民活動団体登録数（H28年度からの累計）	86 団体	96 団体	103 団体	団体	団体	116 団体	B	
	(7-1) みんなの協力でまちをつくる 1. 協働のまちづくりを推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 市民活動センターの利用団体の登録については、順調に件数を伸ばしている。</p> <p>【今後の方向性】 今後も更に、市民活動センターを周知していくとともに、市民活動に関する相談事業や情報提供事業の充実を図る。</p>							
3	まちづくり支援事業実施件数（年間）	19 件	22 件	15 件	件	件	23 件	D	
	(7-1) みんなの協力でまちをつくる 2. 地域主体のまちづくりを推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 実施件数としては前年比低下しているが、申請内容を精査し、交付決定した全ての団体が事業を完了することができた。</p> <p>【今後の方向性】 平成28年度から団体の育成・発展・拡大を図るための3段階からなる交付金として制度改正をし、3年間運用してきた。この3年間で交付金の周知が進み、申請団体及び申請額が増加していることから、今後は適正な審査を図り、より事業の目的を達成できるよう交付団体の決定を進めていく。</p>							
4	平和祈念式典参加者数（年間）	460 人	450 人	500 人	人	人	500 人	A	
	(7-1) みんなの協力でまちをつくる 3. 平和に向けたまちづくりを推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 第二部の市内高校の演劇部や合唱団などの参加により若い世代にも参加してもらった。平成30年度は目標値を達成したが、戦後70年以上が経過し関係者の高齢化とともに参加者が減少傾向にある中で、目標値を維持していくためには、更なる工夫や新たな取組が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 過去の戦争の記憶の継承や戦没者の慰霊という側面と同時に、若い世代における平和意識の醸成、恒久平和・国際平和に向けたメッセージ発信という面での取組を強化していく必要がある。また、式典当日の参加という直接的な参加だけでなく、様々な形で多くの市民に関わってもらえる仕組みを検討していく。</p>							

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3		
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課		
5	行政経営戦略行動計画の達成度	83.7 %	70.1 %	67.6 %	%	%	90.0 %	D	
	(7-2) 安定的・継続的な市民目線の行財政運営を進める	<p>【主な取組内容・成果・要因】 第2次島田市行政経営戦略行動計画は、平成30年度から令和3年度までの4年間を計画期間としている。初年度の実績として、37項目のうち25項目は計画どおり実施している。残りの12項目についても、計画どおりではないが一定の取組を行い施策の推進を図っている。</p> <p>【今後の方向性】 本行動計画について、行政を取り巻く環境の変化や進捗状況の評価等を踏まえ、毎年見直しを行い、新たな取組を追加するとともに成果目標が達成できていない取組については、手段を見直し、目標達成に努めていく。</p>					行政総務課		
6	行政経営戦略行動計画の達成度（再掲）	83.7 %	70.1 %	67.6 %	%	%	90.0 %	D	
	(7-2) 安定的・継続的な市民目線の行財政運営を進める 1. 行財政改革を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 第2次島田市行政経営戦略行動計画は、平成30年度から令和3年度までの4年間を計画期間としている。初年度の実績として、37項目のうち25項目は計画どおり実施している。残りの12項目についても、計画どおりではないが一定の取組を行い施策の推進を図っている。</p> <p>【今後の方向性】 本行動計画について、行政を取り巻く環境の変化や進捗状況の評価等を踏まえ、毎年見直しを行い、新たな取組を追加するとともに成果目標が達成できていない取組については、手段を見直し、目標達成に努めていく。</p>					行政総務課		
7	公募研修の応募者割合	59.9 %	64.8 %	74.6 %	%	%	73.0 %	A	
	(7-2) 安定的・継続的な市民目線の行財政運営を進める 2. 人材育成を推進し組織力を強化します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度において目標値を超える結果となったが、研修によっては応募がない場合もあるので改善の余地がある。</p> <p>【今後の方向性】 公募研修の日程及び内容を事前に周知することにより、職員が研修に応募しやすい環境を整える。併せて、研修カリキュラムについても職員に魅力あるものになるよう研究を続けていく。</p>					人事課		
8	市民意識調査「情報公開など行政の透明性の向上」における市民満足度	28.1 % 43.8 %	28.8 % 49.1 %	27.3 % 52.8 %	%	%	38.0 % 53.5 %	B	
	(7-2) 安定的・継続的な市民目線の行財政運営を進める 3. 開かれた市政を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 多様化する閲覧者ニーズやよりわかりやすい情報発信のため、平成30年11月にホームページをリニューアルし、SNSと連携した情報発信等を実施することで、市民が行政情報を取得しやすい環境を整えた。一方で、パブリックコメント実施の際に意見を出しやすいため、意見募集時に論点を具体的に示すよう実施課へ指導しているが、資料の公表方法は改善が必要と考える。</p> <p>【今後の方向性】 今後のSNSの動向を注視し、ユーザーのニーズに合わせた情報発信や、サイト分析・改善を実施していくとともに、各媒体の特性を生かしたクロスメディア広報を推進し、必要な方に必要な情報を届けられるよう取り組んでいく。また、条例制定のパブリックコメントを実施するに当たり、市民にわかりやすい情報提供の仕方について検討していく。</p>					行政総務課		

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性					所管課																							
9	電子申請システム手続種別件数（年間） （7-2）安定的・継続的な市民目線の行政運営を進める 4. 行政情報システムの安定運用・最適化に努めます	43 件	49 件	59 件	件	件	73 件	B	<table border="1"> <caption>電子申請システム手続種別件数</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>43</td><td>73</td></tr> <tr><td>H29</td><td>49</td><td>73</td></tr> <tr><td>H30</td><td>59</td><td>73</td></tr> <tr><td>R1</td><td>73</td><td>73</td></tr> <tr><td>R2</td><td>73</td><td>73</td></tr> <tr><td>R3</td><td>73</td><td>73</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	43	73	H29	49	73	H30	59	73	R1	73	73	R2	73	73	R3	73	73
年度	実績	目標																												
H28	43	73																												
H29	49	73																												
H30	59	73																												
R1	73	73																												
R2	73	73																												
R3	73	73																												
		【主な取組内容・成果・要因】 イベント等の申込みについて電子申請を活用するように打診したり、子育てワンストップサービスを開始したことから、件数を大幅に増やすことができた。 【今後の方向性】 今までと同様にグループウェアの掲示板や、広報等から電子申請化できそうなイベント等の申請内容を探し出し、電子申請を活用するように打診することで、手続き件数の増加を図る。また、情報推進リーダー会議で電子申請を周知し、活用を推進していく。					広報情報課																							
10	「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」KPI達成度 （7-3）都市間連携による地域の活性化を進める	— %	71.4 %	65.4 %	%	%	100 %	B	<table border="1"> <caption>「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」KPI達成度</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>0</td><td>100</td></tr> <tr><td>H29</td><td>71.4</td><td>100</td></tr> <tr><td>H30</td><td>65.4</td><td>100</td></tr> <tr><td>R1</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>R2</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>R3</td><td>100</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	0	100	H29	71.4	100	H30	65.4	100	R1	100	100	R2	100	100	R3	100	100
年度	実績	目標																												
H28	0	100																												
H29	71.4	100																												
H30	65.4	100																												
R1	100	100																												
R2	100	100																												
R3	100	100																												
		【主な取組内容・成果・要因】 しずおか中部連携中枢都市圏ビジョンに定めた本市が関わる成果指標としては、大井川ニューツーリズムイベント参加者数（目標値140,000人）がある。広域連携を生かして、ビジョン最終年（令和3年）には目標値を到達できるよう努めていく。 【今後の方向性】 例年実施のSLフェスタやトーマスフェアのほか、大井川鉄道沿線において、地域住民等と協力してイベントを実施するなどして集客促進を図る。また策定中の「観光戦略プラン」においても、大井川流域は本市観光の軸となるエリアであるため、ターゲットを明確にし、効果的な情報発信などを実施していく。					戦略推進課																							
11	広域連携関連事業の「めざそう値」達成度 （7-3）都市間連携による地域の活性化を進める 1. 近隣市町と連携した広域行政を推進します	— %	— %	25 %	%	%	100 %	C	<table border="1"> <caption>広域連携関連事業の「めざそう値」達成度</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>0</td><td>100</td></tr> <tr><td>H29</td><td>0</td><td>100</td></tr> <tr><td>H30</td><td>25</td><td>100</td></tr> <tr><td>R1</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>R2</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>R3</td><td>100</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	0	100	H29	0	100	H30	25	100	R1	100	100	R2	100	100	R3	100	100
年度	実績	目標																												
H28	0	100																												
H29	0	100																												
H30	25	100																												
R1	100	100																												
R2	100	100																												
R3	100	100																												
		【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、「ICTを活用した個別プロジェクト実施件数」「観光交流客数」「大井川の水環境に対する市民の関心度」「島田市博物館入館者数」の4つを広域連携関連事業に関連するめざそう値とし、「ICTを活用した個別プロジェクト実施件数」がC評価となった。 【今後の方向性】 関連事業について引き続き関連市町と連携して取り組んでいくとともに、しずおか中部連携中枢都市圏、志太3市など様々な枠組みを生かした連携事業を増やし、地域の活性化、行政活動の効率化を進めていく。					戦略推進課																							
12	富山県氷見市姉妹都市提携事業における公募参加人数の割合 （7-3）都市間連携による地域の活性化を進める 2. 県外自治体との連携を推進します	— %	75 %	0 %	%	%	50 %	C	<table border="1"> <caption>富山県氷見市姉妹都市提携事業における公募参加人数の割合</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>0</td><td>50</td></tr> <tr><td>H29</td><td>75</td><td>50</td></tr> <tr><td>H30</td><td>0</td><td>50</td></tr> <tr><td>R1</td><td>50</td><td>50</td></tr> <tr><td>R2</td><td>50</td><td>50</td></tr> <tr><td>R3</td><td>50</td><td>50</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	0	50	H29	75	50	H30	0	50	R1	50	50	R2	50	50	R3	50	50
年度	実績	目標																												
H28	0	50																												
H29	75	50																												
H30	0	50																												
R1	50	50																												
R2	50	50																												
R3	50	50																												
		【主な取組内容・成果・要因】 平成30年度は、協働のまちづくりに係る氷見市との市民交流事業を実施しなかった。 【今後の方向性】 氷見市との市民交流事業のあり方について検討する必要がある。					市民協働課																							

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3																							
施策の柱 施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																						
13	公共施設管理運営費の市民1人当たりの負担額 (7-4) 公共施設を賢く持って、賢く使う	19,766 円/人	20,122 円/人	20,597 円/人	円/人	円/人	19,000 円/人	D	<table border="1"> <caption>公共施設管理運営費の市民1人当たりの負担額</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>19,766</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>20,122</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>20,597</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>19,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	19,766	-	H29	20,122	-	H30	20,597	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	19,000
年度	実績	目標																												
H28	19,766	-																												
H29	20,122	-																												
H30	20,597	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	19,000																												
<p>【主な取組内容・成果・要因】 人口減少による分母の縮小に比べて、施設総量の減少や管理費の見直しが進まなかったことが、市民1人当たりの負担額の増大につながったものと思われる。</p> <p>【今後の方向性】 個別施設計画の策定に向け検討を進めている状況において、目標年次までに公共施設の総量を計画的に削減することは極めて困難であるため、公共施設の管理運営に係る契約内容の見直し等を通して費用の低減化を図り、市民1人当たりの負担額の水準の維持に努める。</p>								資産活用課																						
14	公共施設のあり方に対し関心を持っている市民の割合 (7-4) 公共施設を賢く持って、賢く使う 1. 公共施設のあり方検討を進めます	— %	— %	82.7 %	%	%	85.0 %	B	<table border="1"> <caption>公共施設のあり方に対し関心を持っている市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>82.7</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>85.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	-	-	H29	-	-	H30	82.7	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	85.0
年度	実績	目標																												
H28	-	-																												
H29	-	-																												
H30	82.7	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	85.0																												
<p>【主な取組内容・成果・要因】 新市民病院の建設や市役所周辺整備の検討、島田工業高校の生徒による劣化状況調査現場体験の取組の市民への周知等を通して、公共施設のあり方に対する市民の関心は高まっているものと考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 「公共施設適正化推進プラン」の整理及び「個別施設計画」の策定・公表を通して、市民が公共施設のあり方を自分ごととして考える環境の創出に努めていく。</p>								資産活用課																						
15	公共施設の資産老朽化比率 (7-4) 公共施設を賢く持って、賢く使う 2. 効率的に公共施設を整えます	56.9 %	58.2 %	59.3 %	%	%	57.0 %	D	<table border="1"> <caption>公共施設の資産老朽化比率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>56.9</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>58.2</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>59.3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>57.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	56.9	-	H29	58.2	-	H30	59.3	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	57.0
年度	実績	目標																												
H28	56.9	-																												
H29	58.2	-																												
H30	59.3	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	57.0																												
<p>【主な取組内容・成果・要因】 比率の上昇が見られることから、経年による減価償却に対して投資が若干追いついていない状況である。財政状況が厳しく、公共施設の老朽化対策に係る予算の確保が困難となっていることが一因と考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 予防保全の考え方に基づき建物・設備を計画的に保全するサイクルを構築し、予算確保に関する手続きの合理化を図るとともに、適切な投資により安全性・快適性の安定的な確保を目指す。</p>								資産活用課																						
16	公的不動産の管理・活用向け公民連携手法の導入を検討した案件の数（H28年度からの累計） (7-4) 公共施設を賢く持って、賢く使う 3. 公的不動産を戦略的に管理・活用します	1 件	2 件	3 件	件	件	10 件	C	<table border="1"> <caption>公的不動産の管理・活用向け公民連携手法の導入を検討した案件の数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>2</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>-</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	1	-	H29	2	-	H30	3	-	R1	-	-	R2	-	-	R3	-	10
年度	実績	目標																												
H28	1	-																												
H29	2	-																												
H30	3	-																												
R1	-	-																												
R2	-	-																												
R3	-	10																												
<p>【主な取組内容・成果・要因】 平成29年度は市民会館機能再生について、平成30年度は旧金谷庁舎跡地利活用について、それぞれ公民連携手法の導入の適正を把握するための調査を実施し、このうち旧金谷庁舎跡地利活用についてはPF1による施設の整備と運営を前提に引き続き調査を進めることとなった。</p> <p>【今後の方向性】 これまで検討の対象としてきた比較的大規模の大きい案件ばかりでなく、小規模な市有地の利活用に対しても民間事業者等からの提案募集などを通して、公民連携の可能性を幅広く検討する必要がある。</p>								資産活用課																						